

# 屋舗田丸遺跡

新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

土佐山田町教育委員会

# 屋舗田丸遺跡

新改中部地区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

土佐山田町教育委員会



SD1-③、SB1 完掘状態（南より）

## 序

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稲作農業が盛んに行われてきました。しかし、近年の農業構造改善に伴い、農業経営は複雑化、多様化してきております。こうした状況のなか、本町におきましても土地改良事業や圃場整備事業が断続的に実施されております。

平成8年度から、新改中部地区において県営圃場整備が行われるようになり、当教育委員会では事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度より実施し、旧石器時代から近世に至る貴重な資料が得られました。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていく契機となれば幸いです。

最後になりましたが、高知県中央東耕地事務所、新改中部土地改良区組合、高知県教育委員会、(財)高知県埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理作業に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初 恵

## 例　　言

1. 本書は土佐山田町新改中部地区圃場整備事業に伴う、屋舗田丸遺跡の発掘調査報告書である。
2. 開キ丸遺跡の所在地は高知県香美郡土佐山田町新改字屋舗田丸である。
3. 調査対象面積は87,500m<sup>2</sup>であり、発掘調査面積は1,570m<sup>2</sup>である。調査期間は平成12年7月26日～10月26日である。
4. 発掘調査及び整理作業は、土佐山田町教育委員会が実施し、小林麻由（土佐山田町教育委員会社会教育課）が担当した。測量・調査補助は大賀幸子（土佐山田町教育委員会社会教育課臨時職員）、澤江和美（同臨時職員）の助力を得た。調査事務は、甲藤みち子（土佐山田町教育委員会社会教育課課長補佐）がおこなった。
5. 本書の執筆、写真撮影、編集等は小林がおこなった。
6. 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の諸氏・諸機関から助言・教示を賜った。記して衷心より謝意を表したい。（敬称略）

浜田恵子（高知県埋蔵文化財センター）、松田知彦（高知県教育委員会）、三谷民雄（南国市教育委員会）森田尚宏（高知県埋蔵文化財センター）土佐山田町新改中部土地改良区組合、高知県中央東耕地事務所、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

7. 出土した瀬戸美濃窯製品の一部については、藤澤良祐氏（瀬戸市埋蔵文化財センター）に、漳州窯系陶磁器の一部については、森村健一氏（堺市埋蔵文化財研究センター）、肥前産陶磁器の一部については大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）に多くの御助言・御教示を賜った。記して衷心より謝意を表したい。
8. 発掘調査にあたっては、地元関係者をはじめ多くの方々のご協力を頂いた。また、発掘作業においては下記の方々のご協力を得た。関係各位に厚くお礼申し上げたい。

発掘作業…幾井寿美、池宣宏、井上郁雄、今井春恵、加地宣子、小松一仁、坂田昌成、  
佐々木龍男、竹村君子、田村香代子、中沢英子、永森崇裕、西内孝明、  
浜田和博、浜田誠、古谷広海、間城亜由子、山崎政子、山下厚子、山本冴子、  
山本敏

整理作業…大賀幸子、風間俊秀、岡林光、澤江和美、高橋加奈、竹崎寛将、研川英征、  
中村千代、宗石祥一、山口正

9. 当遺跡出土資料は、土佐山田町教育委員会が保管している。  
遺跡の略号は00-2-S Yである。

## 本文目次

第Ⅰ章 調査の契機と経過 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境 .....	2
第2節 歴史的環境 .....	2
第Ⅲ章 調査の概要	
第1節 調査の方法 .....	5
第2節 調査区の概要 .....	6
第Ⅳ章 遺構と遺物	
第1節 I 区 .....	8
第2節 II 区 .....	19
第Ⅴ章 まとめ .....	44

## 挿 図 目 次

Fig. 1 土佐山町位置図 .....	1
Fig. 2 屋舎田丸遺跡と周辺の遺跡分布図 .....	4
Fig. 3 屋舎田丸遺跡の範囲と調査対象区域 .....	5
Fig. 4 屋舎田丸遺跡調査区位置図 .....	6
Fig. 5 I 区 基本層序 .....	7
Fig. 6 I 区 検出遺構全体図 .....	9
Fig. 7 I 区 P4, 5, 45, 46 平面・断面図 P104, 108 平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 .....	10
Fig. 8 I 区 SK1・SK4 平面・断面図及び遺物実測図 .....	12
Fig. 9 I 区 SB1 平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 .....	13
Fig. 10 I 区 SB2・SB3 平面・エレベーション図 .....	14
Fig. 11 I 区 出土遺物実測図(1) .....	15
Fig. 12 I 区 出土遺物実測図(2) .....	16
Fig. 13 II 区 検出遺構全体図 .....	18
Fig. 14 II 区 SK4・5, P26・166 平面・エレベーション図・断面図及び出土遺物実測図 .....	20
Fig. 15 II 区 SK9 平面・断面図及び出土遺物実測図 .....	21
Fig. 16 II 区 SK10・15 平面・断面図及び出土遺物実測図 .....	22
Fig. 17 II 区 SK16 平面・断面図及び出土遺物実測図 .....	24
Fig. 18 II 区 SK17 平面・断面図 .....	25
Fig. 19 II 区 SD1 断面図 .....	26
Fig. 20 II 区 SD2 平面・断面図及び出土遺物実測図 .....	28
Fig. 21 II 区 SB1 平面・エレベーション図・断面図及び出土遺物実測図 .....	30
Fig. 22 II 区 SB2・3 平面・エレベーション図・断面図 .....	31
Fig. 23 II 区 SB4・5 平面・エレベーション図・断面図 .....	32
Fig. 24 II 区 SB6 平面・エレベーション図・断面図 .....	33
Fig. 25 II 区 出土遺物実測図(1) .....	34
Fig. 26 II 区 出土遺物実測図(2) .....	35
Fig. 27 II 区 出土遺物実測図(3) .....	36
Fig. 28 II 区 出土遺物実測図(4) .....	37
Fig. 29 II 区 出土遺物実測図(5) .....	38
Fig. 30 II 区 出土遺物実測図(6) .....	39
Fig. 31 新改川(国分川)周辺の遺跡分布図 .....	46

## 表 目 次

Tab. 1 屋舎田丸遺跡の位置と周辺の遺跡地名表 .....	4
Tab. 2 I 区 遺物観察表 .....	17
Tab. 3 II 区 遺物観察表(1) .....	40
Tab. 4 II 区 遺物観察表(2) .....	41
Tab. 5 II 区 遺物観察表(3) .....	42
Tab. 6 II 区 遺物観察表(4) .....	43
Tab. 7 新改川(国分川)周辺の遺跡地名表 .....	46

## 図 版 目 次

写真図版	47
PL. 1 I 区 調査前全景・作業風景	49
PL. 2 I 区 西壁土層断面・遺構検出状態	50
PL. 3 I 区 P108 遺物出土状態・P109 遺物出土状態	51
PL. 4 I 区 SK1 南壁土層断面・調査区完掘状態	52
PL. 5 II 区 調査前全景・作業風景	53
PL. 6 II 区 遺構検出状態・P17 南壁土層断面	54
PL. 7 II 区 P156 東壁土層断面・SB1-P3 遺物出土状態	55
PL. 8 II 区 SK1 遺物出土状態・SK4 南壁土層断面	56
PL. 9 II 区 SK5・SK9	57
PL. 10 II 区 SK18・SD1-② ⑨-⑩ 土層断面	58
PL. 11 II 区 SD1-② 完掘状態・SD2	59
PL. 12 II 区 SD1-②・調査区完掘状態	60
PL. 13 I 区 遺構内出土遺物	61
PL. 14 I 区 遺構内出土遺物・包含層出土遺物	62
PL. 15 II 区 遺構内出土遺物	63
PL. 16 II 区 遺構内出土遺物	64
PL. 17 II 区 遺構内出土遺物	65
PL. 18 II 区 遺構内・包含層出土遺物	66
PL. 19 II 区 包含層出土遺物	67
PL. 20 II 区 遺構内出土遺物	68
PL. 21 II 区 遺構内出土遺物	69
PL. 22 II 区 遺構内出土遺物	70
PL. 23 II 区 包含層出土遺物	71
PL. 24 II 区 包含層出土遺物	72
PL. 25 II 区 包含層出土遺物	73
PL. 26 II 区 包含層出土遺物	74
PL. 27 II 区 遺構内出土遺物	75

## 第一章 調査の契機と経過

契機と経過

屋舗田丸遺跡は、高知県香美郡土佐山田町新改字屋舗田丸に所在する。

新改中部地区圃場整備事業に伴い、平成11年度の試掘確認調査を行い遺跡の範囲、遺物包含層ならびに遺構等の有無を調査した結果、遺構及び遺物の出土を確認したため、土佐山田町教育委員会は中央東耕地事務所と協議し、工事対象地の一部について緊急発掘調査を実施することとなった。調査は土佐山田町教育委員会が高知県（中央東耕地事務所）の委託を受け、発掘調査主体となり実施した。

発掘調査期間は平成12年7月26日から10月26日まであり、調査区はI区とII区の計2箇所である。

新改地区では、平成11年度に南ヶ内遺跡の本発掘調査が行なわれており、中世～近世の遺構・遺物が確認されている。



Fig. 1 土佐山田町位置図

## 第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

土佐山田町は、高知県の中東部に位置し、行政区画では香美郡に属する。剣山を源とする物部川によって形成された本県最大の扇状地である香長平野の北端部にあり、70%を森林地帯が占める。高知市より東18km、北は大豊町と本山町、西は南国市、東は香北町、南は野市町に接している。広さは東西に12.4km、南北10.5km、面積116.46km<sup>2</sup>であり、人口は21,939人（男10,424人、女11,515人）を有する。平成9年には高知県初の工科系大学として高知工科大学が設立され、注目を集めている。

地形は、西部の甫喜ヶ峰（標高611m）から東部の赤塚山（標高850m）にかけての尾根によって北部地域と南部地域に分割される。また、剣山を源とする物部川のよって形成された本県最大の扇状地である香長平野の北端部にあり、70%を森林地帯が占める。屋舗田丸遺跡は標高約40mの舌状台地上に位置しており、南には国分川（新改川）が流れる。

地質の特徴としては西南日本外帯の秩父帯に位置し、なかでも調査を実施した新改地区は杉田構造線上にあたり、秩父北帯と中帯との境である。白木谷層群に類し、砂岩泥岩互層・緑色凝灰岩から成り、チャート・石灰岩をはさんでいる。

### 第2節 歴史的環境

**縄文時代**　早期の飼古原岩陰遺跡が当該時期では最古の遺跡として挙げることができる。押型文土器、チャート製石錐が数多く出土しており、吉野川上流地域の最古の遺跡としても知られている。また、平成12年に本調査を実施した開キ丸遺跡が本遺跡より500m北東にあり、押型文土器、サヌカイト製石錐が出土している。

後期・晩期では、林田シタノヂ遺跡が存在する。出土した2点の縄文土器については中津式古段階に並行するものであり、高知県中央部の後期土器編年を考える上で指標となる土器である。

**弥生時代**　田村遺跡をはじめとして、物部川流域や他の主要河川においても集落が出現する。土佐山田町では中期中葉以降の遺跡が存在する。石灰岩の洞穴内にある遺跡として全国的に有名なのが龍河洞洞穴遺跡であり、高知県中央以東の標式遺跡となった。

平野部には標高30mの丘陵地域に原遺跡・原南遺跡・稻荷前遺跡が存在する。中期中葉から後期前半に属する弥生式土器が出土しており、堀立柱建物跡、溝が検出されている。

後期終末から古墳時代初頭にかけて遺跡数が激増し、高知県下の弥生時代社会は変革期を迎える。土佐山田町では林田遺跡、ひびのきサウジ遺跡を挙げることができる。ひびのきサウジ遺跡については竪穴住居址に集中廃棄された一括資料があり、同時期の様相を知る上で貴重なものである。

**古墳時代**　高知県内において残存する唯一の前方後円墳と推測されていた伏原大塚古墳が土佐山田町楠目に存在する。91年の調査で一辺34mの大型方墳であることが確認された。幅約2mの周溝からは全国的にみても類例のない円筒形埴輪が出土した。

**古代** 新改・植・須江地区の山麓部に多くの古窯跡が存在する。植タンガン遺跡は比江廃寺（南国市）の瓦を焼いた窯として知られている。平成10年に試掘確認調査が行なわれた加茂ハイタノクボ遺跡では香川県・普通寺跡等で出土している瓦と同范関係にある軒丸瓦、軒平瓦が出土した。

また、香美郡衙推定地とされる大領遺跡が物部川右岸に位置する。

**中世・近世** 物部川の古扇状地（長岡台地）上に楠目遺跡・高柳遺跡など中世の遺跡が点在する。いずれも中世の城館跡と考えられる。中でも楠目遺跡は山田氏の居城である山田城の南に位置し「城南」という字名が残る。山田氏の居館が存在していた可能性がある。

また、屋舗田丸遺跡より500m南西に南ヶ内遺跡が存在する。平成11年度に発掘調査を実施し、中世～近世にかけての遺構（掘立柱建物跡・井戸）や遺物が出土している。

#### 参考文献

- |                               |               |            |
|-------------------------------|---------------|------------|
| 『土佐山田町史』(1979)                | 土佐山田町史編纂委員会 編 |            |
| 森田尚宏 他『飼古屋岩陰遺跡調査報告書』(1983)    |               | 高知県教育委員会   |
| 山崎正明 『林田シタノヂ遺跡Ⅱ』(1993)        |               | 土佐山田町教育委員会 |
| 川端清司 『加茂ハイタノクボ遺跡』(2000)       |               | 土佐山田町教育委員会 |
| 岡本健児 他『龍河洞』(1974)             |               | 龍河洞保存会     |
| 出原恵三 『原南遺跡発掘調査報告書』(1991)      |               | 高知県文化財団    |
| 高橋啓明 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(1985) |               | 土佐山田町教育委員会 |
| 廣田佳久 『伏原大塚古墳』(1993)           |               | 土佐山田町教育委員会 |

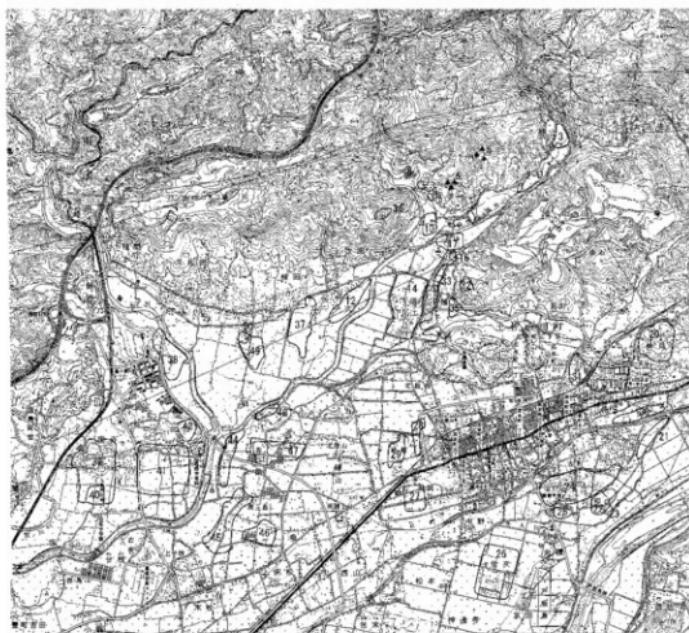


Fig.2 屋舎田丸遺跡と周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	屋舎田丸遺跡	古代～近世	26	大領遺跡	古墳～中世
2	開き丸遺跡	中世～近世	27	東白井遺跡	古墳
3	入野遺跡	縄文～近世	28	山田三ツ又東遺跡	弥生～近世
4	入野城跡	中世	29	山田三ツ又遺跡	古墳～平安
5	大谷古窯跡	奈良～平安	30	楠目遺跡	弥生～近世
6	林ノ谷古窯跡	古墳～平安	31	伏原遺跡	古墳～平安
7	西谷遺跡	旧石器～中世	32	植村城跡	弥生～近世
8	勝棄寺跡	近世	33	植南土居遺跡	弥生～平安
9	小山田遺跡	旧石器～中世	34	モジリカワ遺跡	中世
10	南ヶ内遺跡	弥生～近世	35	西クレドリ遺跡	平安～中世
11	新改古墳	古墳	36	改田物見の城跡	弥生～近世
12	改田神母遺跡	古墳～平安	37	ハザマダ遺跡	弥生～近世
13	須江北遺跡	古墳～平安	38	上岡城跡	中世
14	須江上段遺跡	古墳～近世	39	四分寺遺跡群	古墳～平安
15	タンガン遺跡	平安	40	土佐国分寺跡	奈良・平安
16	タンガン古墳	古墳	41	七佐国府跡	弥生～中世
17	薬原神社	奈良～中世	42	比江山城跡	中世
18	ひびのき園の神母遺跡	弥生～近世	43	比江庵寺跡	白鳳・奈良
19	ひびのきやウジ遺跡	弥生～近世	44	潤ノ上遺跡	弥生～平安
20	楠目城跡(山田城跡)	中世	45	三添遺跡	弥生～近世
21	福井前遺跡	弥生～近世	46	泡ノ上遺跡	古墳～中世
22	高柳遺跡	弥生～近世	47	三畠遺跡	弥生～平安
23	高柳土居城跡	中世	48	三畠跡	中世
24	原塚跡	弥生～近世	49	泉ヶ内遺跡	古墳～平安
25	原塚遺跡	弥生～近世	50	沖の上居跡	中世

Tab.1 屋舎田丸遺跡の位置と周辺の遺跡地名表

### 第Ⅲ章 調査の概要

#### 第1節 調査の方法

調査対象地は「屋舗田丸遺跡」（高知県市町村遺跡番号NO190205）として周知された場所であり、平成11年度に実施した試掘確認調査の結果をふまえて調査Ⅰ区・Ⅱ区を設定した。

Ⅰ区は県道繁藤西町線沿いに、Ⅱ区はⅠ区より南東の新改川寄りにそれぞれ設定し、全面を調査した。

まず、重機によって表土層ならびに基盤層を除去した後、人力によって遺構検出及び遺構の掘り下げを行った。また、調査区西端にサブトレーナーを入れ、下層の確認を行いつつ作業を進めた。遺構の実測・遺物の取り上げについては県道に設置された任意座標の基準点よりトラバース測量を実施し、その成果を基にして調査区内に4m×4mの小グリッドを設定した。

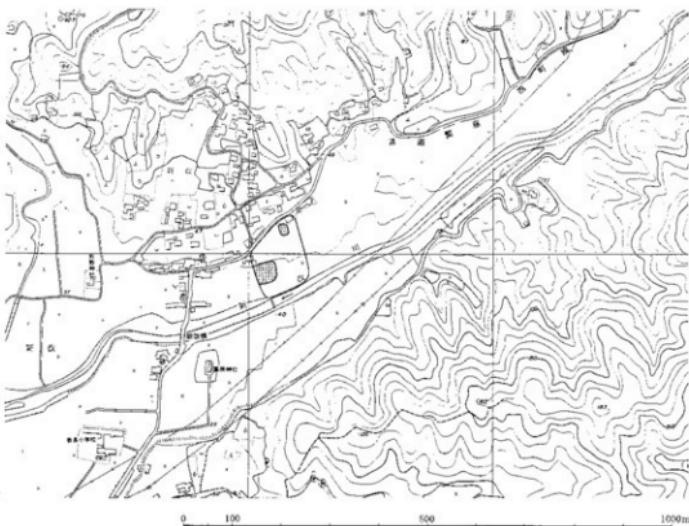


Fig.3 屋舗田丸遺跡の範囲と調査対象区域



Fig.4 屋舗田丸遺跡調査区位置図

## 第2節 調査区の概要

(1) I区

県道繁藤西町線沿いの東に設定した調査区である。調査面積は430m<sup>2</sup>で、標高は40.8m前後を測る。調査区南に柱穴の検出が集中したので、遺構に杭を打つことを避けて任意の地点を設定し実測、取り上げを行った。

附錄

I区において認められた基本層序は次ページのとおりである



Fig.5 I 区 基本層序

第Ⅰ層は表土層であり、厚さ20cm前後を測る。

第Ⅱ層は基盤層で、橙色の小砾が混じる層である。

第Ⅲ層も基盤層である。

第Ⅳ層は遺構の埋土である。

第Ⅴ層も遺構の埋土である。

第Ⅵ層は遺物包含層でほとんどの遺構はこの層の上面で検出された。

第Ⅶ層は黒ボク層である。

第Ⅷ層はアカホヤと呼ばれる火山灰層である。

調査区北は遺構検出面の上面に黒ボクが堆積しており、埋土として黒ボクが混入している柱穴も検出している。

遺構検出作業中、調査区北東端より水が涌き始めた為、水中ポンプで水を排出しながら作業を進めた。

## (2) II 区

新改川の近くに設定した調査区である。調査面積は1,140mで標高39.8m前後を測る。平成11年度の試掘確認調査の際に集石遺構を検出している。表土層・基盤層を重機にて除去し人力によって遺構検出を行った後に県道の基準点を基にトラバース測量を実施し、4 m メッシュでグリッドを設定した。

### (層序)

西壁で確認した層序は以下のとおりである。

I …灰褐色粘質土（表土）

II…10YR2/3黑褐色粘質土

III…7.5YR3/4暗褐色粘質土（無遺物層）

IV…10YR2/1黑色粘質土（遺物包含層）

V…7.5YR3/2黑褐色粘質土

## 第IV章 遺構と遺物

### 第1節 I 区

#### (1) 検出遺構

##### ①柱穴

I 区で検出した柱穴のうち遺物が出土したのは139基であり、出土遺物の中から15点を選んで図示した。他はすべて細片のため図示できなかった。

##### P 5 (Fig.7)

調査区北端に位置する。

長軸26cm、短軸22cm、深さ12cmを測る。梢円形の平面プランを有する。

出土遺物は土師質土器1点のみで、図示できるものはなかった。

##### P 6 (Fig.7)

調査区北端に位置する。P5と隣接するピットで、直径24cm、深さ16cmを測る。円形の平面プランを有する。

土師質土器片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

##### SB1-P14 (Fig.9)

調査区中央よりやや北に位置する。埋土は黒色粘質土（7.5YR2/1）である。出土遺物は、土師質土器杯1点、土師質土器片1点でそのうち土師質土器杯1点を図示した（1）。底部から外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部は緩やかに外反する。

##### P45 (Fig.7)

調査区北西端に位置する。長軸30cm、短軸28cm、深さ14cmを測る。梢円形の平面プランを有する。出土遺物はない。

##### P46 (Fig.7)

調査区西端に位置する。長軸24cm、短軸26cm、深さ12cmを測る。ほぼ円形の平面プランを有する。出土遺物はない。

##### P55

調査区中央より南に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は砥石1点（2）で、表面と側面に使用痕が認められる。

##### P58

調査区中央よりやや南、SK1とSK3の間に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は土師質土器杯1点（3）で、内面は横ナデ調整で端部を細く仕上げる。

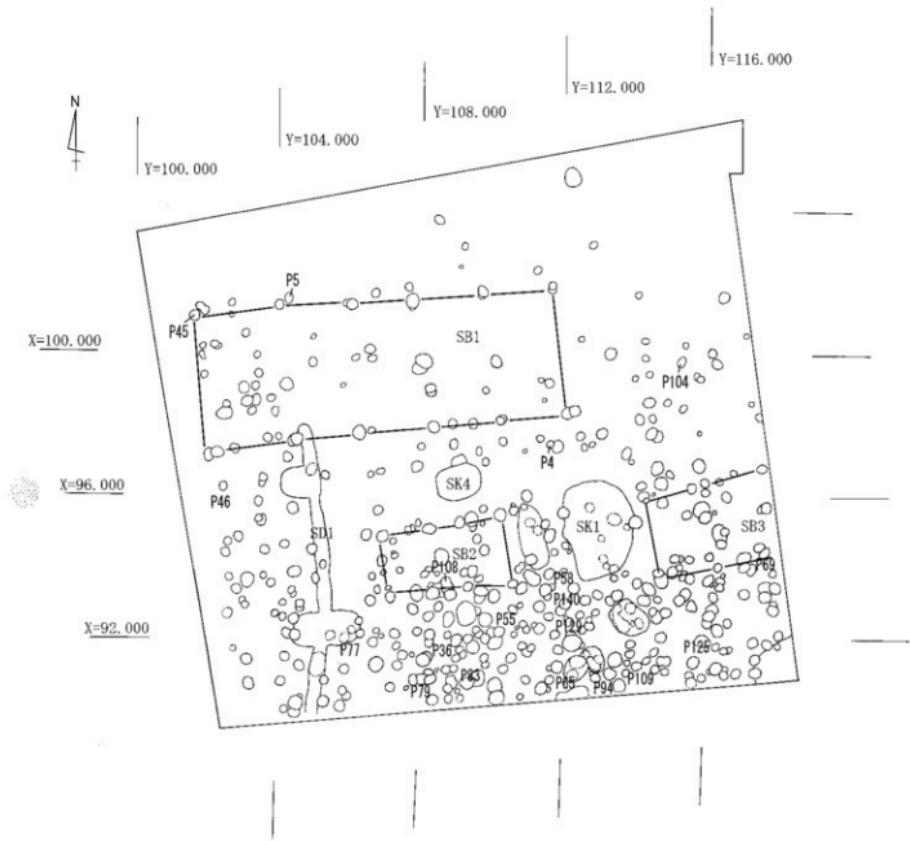


Fig.6 I区 検出遺構全体図

P69

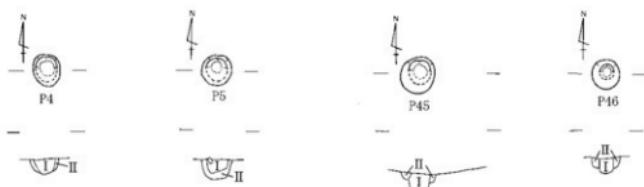
調査区南東端に位置する。埋土は黒色粘質土（7.5YR2/1、赤ホヤ混じる）である。出土遺物は土師質土器2点で、うち1点を図示した（4）。手づくねの皿で、口縁部に横ナデ調整がみられる。端部を細く仕上げる。

P77

調査区南よりに位置する。SK 6 を切っているピットで、埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は土師質土器3点で、うち1点を図示した（5）。器形は皿で、胴部は外上方へのび端部を細く仕上げる。

P79

調査区南端に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は土師質土器杯1点（6）で胴部は外上方へ直線的にのび、口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部に横ナデ調整がみられる。



I 10YR2/2 黒褐色粘質土 I 10YR3/1 黒色粘質土 I 10YR2/2 黑褐色粘質土 I 10YR2/2 黑褐色粘質土  
II 10YR2/1 黑色粘砂土 II 10YR2/1 黑色粘砂土 II 10YR2/1 黑色粘砂土 II 10YR2/1 黑色粘砂土

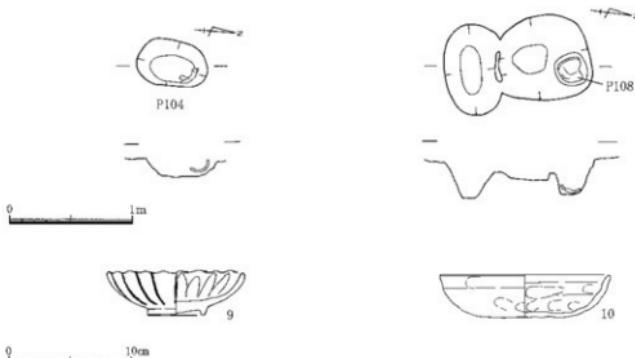


Fig.7 I区 P4, 5, 45, 46 平面・断面図  
P104, P108 平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

P83

調査区南端に位置する。埋土は黒色粘質土(10YR2/1)である。出土遺物は土師質土器杯1点(7)で、外底部に糸切り痕が確認できる。内外面に横ナデ調整がみられる。

P94

調査区南端に位置する。埋土は黒色粘質土(10YR2/1)である。出土遺物は土師質土器3点でうち1点を図示した(8)。土師質土器鍋で胎土に粗砂・雲母を含む。外面には煤が付着している。

P104 (Fig.7)

調査区東寄りに位置する。長軸28cm、短軸18cm、深さ12cmを測る。梢円形のプランを有する。出土遺物は景德鎮窯の菊皿1点(9)である。青磁稜花形の小皿で、ヘラ状工具による片切り彫りを施す。

P108 (Fig. 7)

調査区中央よりやや南に位置する。P98との切りあいは土層断面からは判断できず、不明である。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）であり、出土遺物は土師質土器皿1点（10）で指頭圧痕が顕著にみられる。底部より緩やかに内湾して外上方に立ち上がる。

P109

調査区南東端に位置する。出土遺物は土師質土器杯底部が1点である（11）。ロクロ成形で外底部に糸切り痕が認められる。

P125

調査区南東端に位置する。出土遺物は土師質土器3点で、うち1点を図示した（12）。土師質土器杯で底部から外上方に直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。外底部に糸切り痕が認められる。

P129

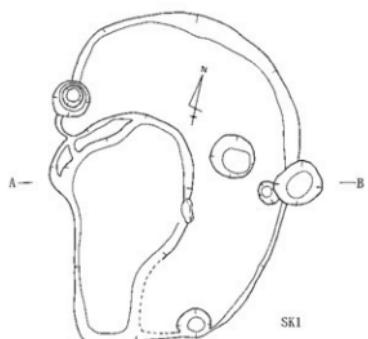
調査区南に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は備前の擂鉢で（13）胴部から外上方に直線的に立ち上がり、端部は上下に拡張される。胎土は灰褐色で2mm程度の粗砂が混じる。

P136

調査区南に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）である。出土遺物は土師質土器3点で、うち1点を図示した（14）。土師質土器杯で、胴部は外上方に直線的に立ち上り、端部は外反する。内外面に横ナデを施す。

P140

SK1南に位置する。埋土は黒色粘質土（10YR2/1）で砂が混じる。出土遺物は土師質土器4点、鉄津1点で、うち土師質土器1点を図示した（15）。土師質土器杯で底部より外上方に直線的に立ち上がる。ロクロ成形で、底部糸切り痕が認められる。



- I 10YR2/1 黒色粘質土  
 II 5Y3/1 黑褐色粘質土  
 III 7.5Y2/1 黒色粘質土  
 IV 10YR3/3 暗褐色粘質土（赤ホヤ）

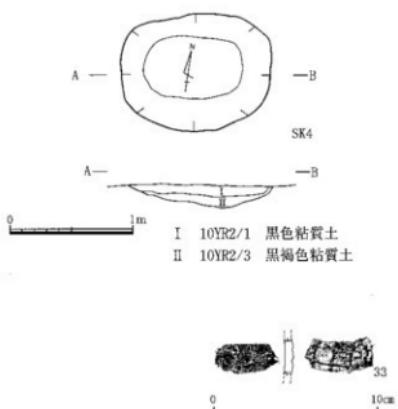


Fig. 8 I 区 SK1・SK4  
 平面・断面図及び出土遺物実測図

## ② 土壙

### SK1 (Fig. 8)

調査区東に位置する。長軸2.8m、短軸8cm、深さ30cmを測る。遺物は土師質土器2点、須恵器1点が出土しているがいずれも細片で図示できるものはなかった。埋土中より大小の礫が出土している。

### SK4 (Fig. 8)

調査区中央に位置する。長軸1.2m、短軸96cm、深さ18cmを測る。隅丸方形の平面プランを有する。遺物は、外面に格子の叩き目を施す土師質鍋の肩部(33)と鉄製品1点が出土している。

## ③ 溝跡

### SD1

調査区西に位置する。南北方向に直線的に走る溝で、SK5とSK6に切られている。

出土遺物は16点で、土師質土器、須恵器、鉄釘、鉄環である。うち、土師質土器杯底部を図示した(16)。ロクロ成形で外底部に回転糸切り痕が認められる。

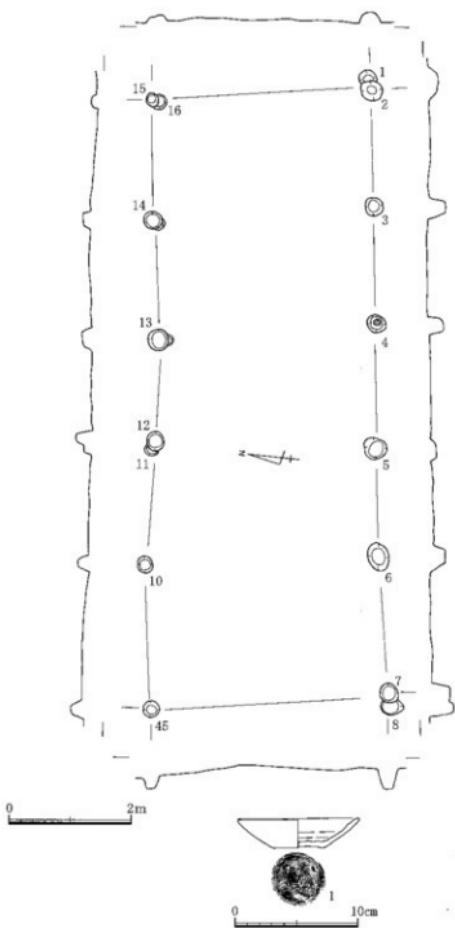


Fig. 9 I 区 SB1 平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

#### ④ 挖立柱建物

SB1 (Fig. 9)

調査区西寄りに位置する建物跡である。

規模は梁間 1 間 (3.9m)、桁行 5 間 (10m)、桁行の柱間寸法は 1.8~2.4m を測る。柱穴の平面形態は円形及び椭円形を呈し、検出規模は P2~4, 45, 10, 12~14 が<sup>d</sup>28~32cm、P5, 7, 16 が<sup>d</sup>36~44cm を測る。深さは P2, 5, 13, 16 が 12~16cm、P4, 6, 7, 12 が 20~24cm、P3, 10, 14 が<sup>d</sup>28~32cm である。埋土は P13, 14, 16 が<sup>f</sup>10YR2/2 黒褐色粘質土、P3~6, 10 が<sup>f</sup>10YR2/1 黒色粘質土、P7 が<sup>f</sup>10YR3/1 黒色粘質土である。

SB2 (Fig. 10)

調査区中央に位置する建物跡である。

規模は、梁間 1 間 (1.7m) 桁行 3 間 (3.3m) 桁行の柱間寸法は 1.0~1.2m を測る。柱穴の平面形態は円形または椭円形を呈し、検出規模は 24~36cm を測る。埋土はすべて 10YR2/2 黑褐色粘質土である。

深さは 14~24cm で、遺物は柱穴から土師質土器 9 点が出土している。いずれも細片で図示できるものはなかった。

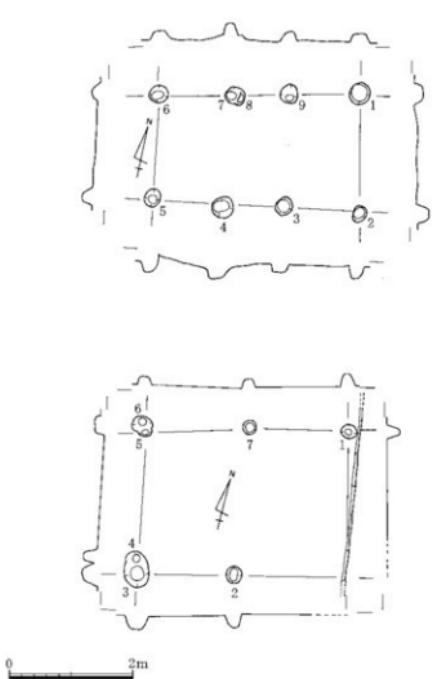


Fig.10 I区 SB2・SB3 平面・エレベーション図

SB3 (Fig. 10)

調査区東に位置する建物跡である。

東端は調査区外で確認できていない。

規模は、梁間1間(2.4m)桁行

2間(3.3m)以上の建物跡である。

桁行の柱間寸法は1.6~1.7mを測る。

柱穴の平面形態は円形または梢円形

を呈し、検出規模は20~40cmを測る。

埋土はすべて10YR2/2黒褐色粘質土

である。

深さは16~20cmで、遺物は柱穴か

ら土師質土器1点が出土している。

細片のため図示できなかった。

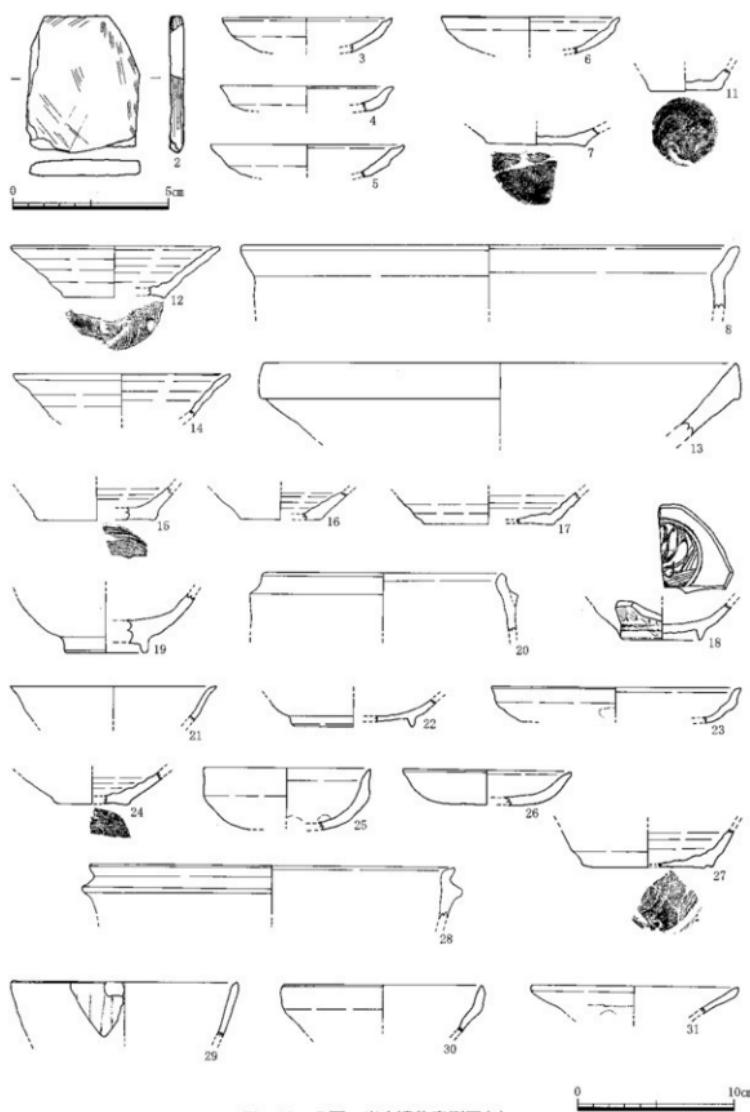


Fig.11 I区 出土遺物実測図(1)

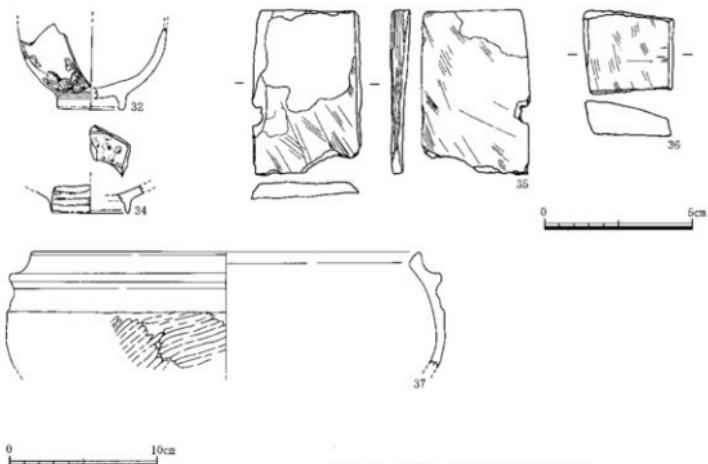


Fig.12 I区 出土遺物実測図(2)

## (2) 出土遺物

### ① 遺構内出土

土師質土器312点、須恵器8点、陶磁器3点（うち貿易陶磁1点）、備前2点、東播系須恵器1点、砥石1点、鉄滓4点、鉄製品3点の計334点である。そのうち18点を図示した。

### ② 包含層出土

包含層（IV～VI層）から出土した遺物は土師質土器263点、須恵器51点、陶磁器25点（うち貿易陶磁2点）、備前3点、瓦2点、砥石2点、鉄滓2点、鉄製品1点の計349点である。そのうち18点と調査区南で採取した1点（37）を図示した。

18は景德鎮窯系の青花小皿である。外面に芭蕉葉文を施す。内面見込みにも文様があるが、種類は不明である。内外面に施釉された透明釉は青色を帯び、呉須は青色でじみが強い。疊付は釉剥ぎ取り痕がみられ、高台内には粗い白色砂が多く付着する。断面に漆擦痕がある。

19は青磁碗である。高台内無釉で、高台内から内溝して立ち上がる。灰色の精選された胎土で、龍泉窯系の製品と考えられる。21は白磁皿である。胴部は外上方に直線的に立ち上がり、口縁端部は外反する。22も白磁皿である。内外面に施釉しており、疊付は釉剥ぎ取り痕が認められる。23は土師質土器皿である。胴部は内溝して外上方に立ち上がり、口縁部は外反する。32は肥前産磁器の腕である。底部内面に粗糸を敷いた上に置いた跡が認められる。35、36は砥石である。35は両面に擦痕が認められる。石種は不明だが、脆く剥離しやすい石材を使用している。36は両面・側面ともに擦痕が認められる。37は調査区南の掘削土を置く場所より出土した。層位は不明である。土師質土器鍋で胴部上半から口縁部にかけて大きく内溝する。外面には右上がりの叩き目を施す。内面は横方向のハケ目が認められる。播磨型鍋である。

着物 番号	Fig.No	出土 地点	種類	各種/器形	法 量(cm)			外側/内面 調整	始 上	特 徴	産 地	年 代	備 考	
					口径	沿高	周径							
No.1	9	P10	土師質	杯	9.9	2.4	4.4	内外面模ナダ調整	7.5R7/6 外底部切削 底色					
No.2	11	P55	石製品	硯石	全長 4.6cm	全幅 3.6cm	全厚 5mm						表面・背面に擦痕あり	
No.3	11	P58	土師質	杯	11			口縁部模ナダ調整	7.5R8/3 底色					
No.4	11	P69	土師質	瓶	11.1			口縁部模ナダ調整	7.5R7/6 底色	手づくね				
No.5	11	P77	土師質	瓶	12.4			内外面模ナダ調整	7.5R7/6 底色					
No.6	11	P79	土師質	瓶	11.5			口縁部模ナダ調整	10R8/3 底色					
No.7	11	P83	土師質	杯				6.2	内外面模ナダ調整	10R7/3 底色	外底部切削 切り			
No.8	11	P84	土師質	瓶	37			内面模ナダ調整	7.5R5/4 に底に褐色	外側に擦り傷	在施主	16世紀		
No.9	7	P104	磁器 青磁	殘花瓶	11.2	3.7	4.6	(外)へつ状文具 による片切り	NV/ 灰白色		表面擦傷	16世紀後半		
No.10	7	P108	土師質	杯	13.9	3.5	6.2	口縁部内唇面模ナダ	10R7/4 に底に褐色	内面に擦傷				
No.11	11	P109	土師質	杯				4.4	ロクロ成形	7.5R7/4 に底に褐色	外底部切削 切り			
No.12	11	P125	土師質	杯	13.5	3.3	6.5	ロクロ成形	10R7/3 に底に褐色	外底部切削 切り				
No.13	11	P129	漆器	漆鉢	30.4			内外面模ナダ	10R4/1 灰白色	粗面削り		15世紀前半	開闢編年古期	
No.14	11	P126	土師質	杯	14			ロクロ成形	10R7/4 に底に褐色	口縁部内反 する				
No.15	11	P140	土師質	杯				7.6	ロクロ成形	7.5R7/6 褐色	内外面切削 切り			
No.16	11	S21	土師質	杯				5.2	ロクロ成形	7.5R7/6 褐色	外底部切削 切り			
No.17	11	S28	土師質	杯				8.2	ロクロ成形	10R8/4 底面砂目健み 底色	底面砂目健み 底色			
No.18	11	青磁 青釉	碗					(外)底英文	5R7/1 灰白色	高台内妙が書 く手付省	墨書き	15世紀末～ 16世紀前半		
No.19	11	V7	漆器 青磁	瓶					7.5R6/1 灰白色		粗面			
No.20	11	V17	土師質	瓶	15.2				10R6/6 底色	口縁部外反す る				
No.21	11	V7	白磁	碗	13.4			内外面指摩	NV/ 灰白色					
No.22	11	白磁	白磁	不明				7.6	NV/ 灰白色					
No.23	11	白磁	土師質	瓶	16			内外面模ナダ調整	10R7/3 に底に褐色	粗面底張あり				
No.24	11	白磁	土師質	杯				4.8	ロクロ成形	7.5R7/6 底色	外底部切削 切り			
No.25	11	白磁	土師質	杯	10.8			内外面模ナダ調整	10R7/4 に底に褐色				脚部に沿筋压痕認めら れる	
No.25	11	白磁	土師質	瓶	10.8			内面模ナダ調整	7.5R7/6 底色				口縁外側方向にナダ 調整が認められる	
No.27	11	白磁	土師質	杯				7.4	ロクロ成形	10R7/4 に底に褐色	外底部切削 切り			
No.28	11	白磁	土師質	瓶	23.4				7.5R7/4 に底に褐色		墨書き			
No.29	11	白磁 青磁	碗		14.6			(外)底英文	NV/ 灰白色					
No.30	11	白磁	土師質	杯	12.8			内外面模ナダ調整	7.5R7/4 に底に褐色					
No.31	11	白磁	陶器	瓶	13.2			内外面指摩	10R5/3 に底に褐色					
No.32	12	V17	磁器 青釉	碗				4.4	(外)折枝梅文	7.5R7/4 灰白色	肥前窓	17世紀	初期伊万里	
No.33	12	S24	土師質	瓶				(外)絵手の印目あ り	10R5/3 に底に褐色	外面に墨付筆 描画				
No.34	12	V17	磁器 青釉	碗				5.2	2.5R8/1 灰白色					
No.35	12	V17	石製品	硯石	全長 5.6	全幅 6.5cm	全厚 6.5mm						背面	
No.36	12	V17	石製品	硯石	全長 2.8	全幅 3.1	全厚 1.3cm						背面	背面に擦痕
No.37	12	筒金 外付	土師質	瓶				26.4	外縁に上上がり 有目底	7.5R6/6 底色	筆書き	15世紀後半		

Tab.2 I区 遺物観察表



Fig.13 II区 検出遺構全体図

## 第2節 II区

### (1) 検出遺構・遺物

#### ①柱穴

##### 1. 古代

P166 (Fig. 14)

調査区西に位置する。楕円形のプランを有し長軸35cm、短軸32cmを測る。19は白磁で、玉縁状の口縁を有する碗である。共伴する遺物はない。

##### 2. 中世

P 26 (Fig. 14)

調査区西に位置する。円形の平面プランを有し直径30cm、深さ34cmを測る。東播型こね鉢の口縁部(2)と胴部(3)が出土しており、同一個体と考えられる。

P134

調査区西、SK1の中に位置する。円形のプランを有し直径28cm、深さ26cmを測る。個体を打ち割ったと考えられる石の破片が柱穴の底までぎっしりと詰まっていた。

P 187

調査区南に位置する。平面プランは周囲のピットに切られているため、確認できない。25 (Fig. 14)は龍泉窯系の縞線刻蓮弁文碗である。酸化焼成されたため釉は黄褐色に発色している。胎土はにぶい黄色を呈する。

P 194

調査区北西に位置する。埋土中より銅錢が1枚出土している。腐食が激しく文字は読み取れない。

#### ②土壤

##### 1. 中世

SK1

調査区西に位置する。楕円形のプランを有し長軸2.6m、短軸2.2m、深さ26cmを測る。南側にテラス状の高まりがある。

埋土は単純一層で、7.5YR3/4暗褐色粘質土と10YR3/2黒褐色粘質土の混合である。

出土遺物は土師質土器21点、須恵器1点、近世陶磁器5点、天目茶碗1点(36)、砥石1点(136)の計29点である。

SK4 (Fig. 14)

調査区中央よりやや西に位置する。

長軸1.9m、短軸76cmを測る、長方形のプランを有する。深さは56cmである。遺構内中央に人頭大の石が2個並んでいる。土師質土器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

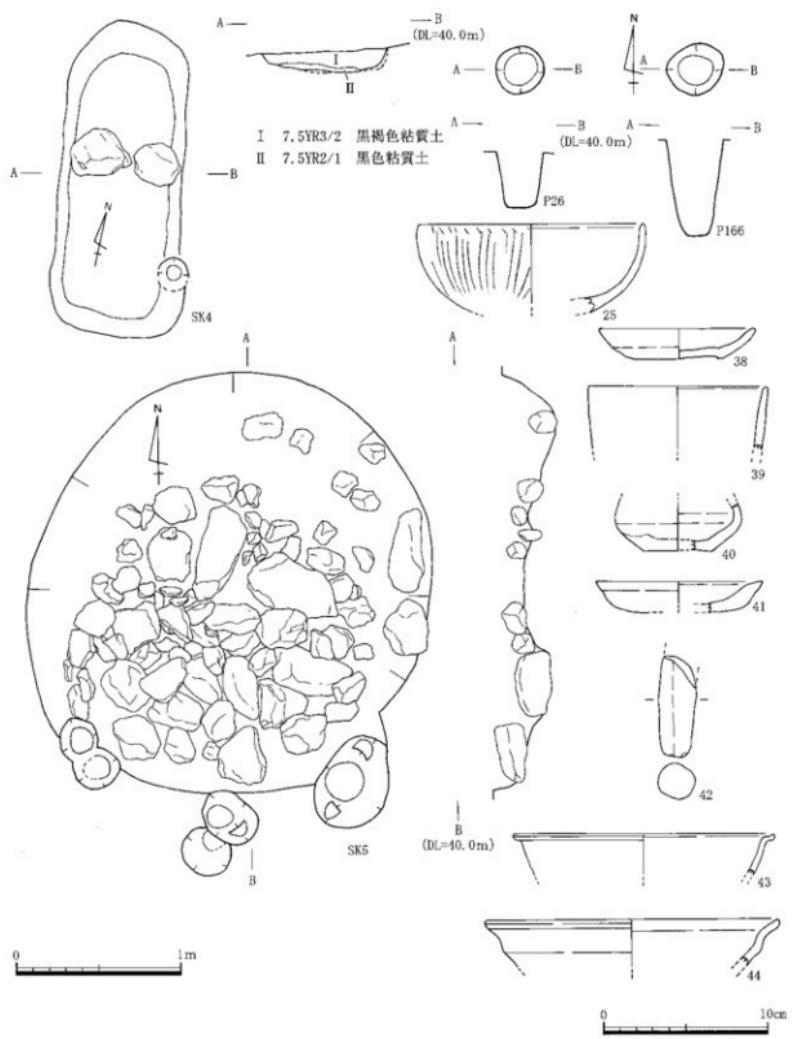


Fig.14 II区 SK4・5、P26・166 平面エレベーション図・断面図及び出土遺物実測図

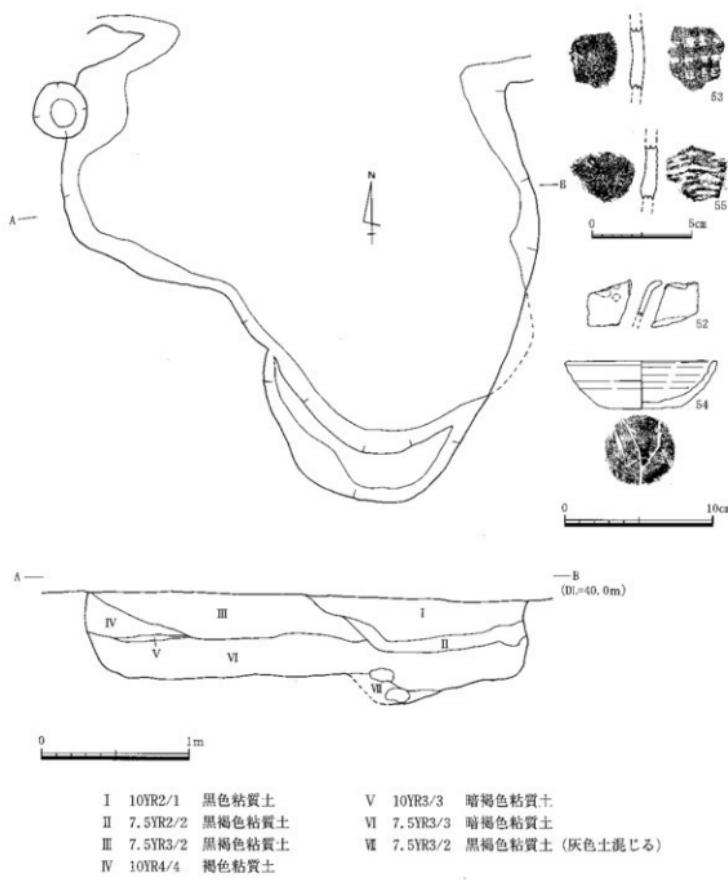


Fig.15 II区 SK9 平面・断面図及び出土遺物実測図

#### SK5 (Fig. 14)

調査区北に位置する。SD1を切っており、プランはほぼ円形で長軸2.6m、短軸2.5mを測る。遺構検出時から集石が認められた。井戸ではないかと考えられたが版築の跡もなく、また集石を除去してすぐに完掘したことから、井戸ではなく礫を投げ込んだ土壤と判断した。出土遺物は土師質土器17点、近世陶磁器3点、天目茶碗1点、鍋の脚部2点の計23点である。

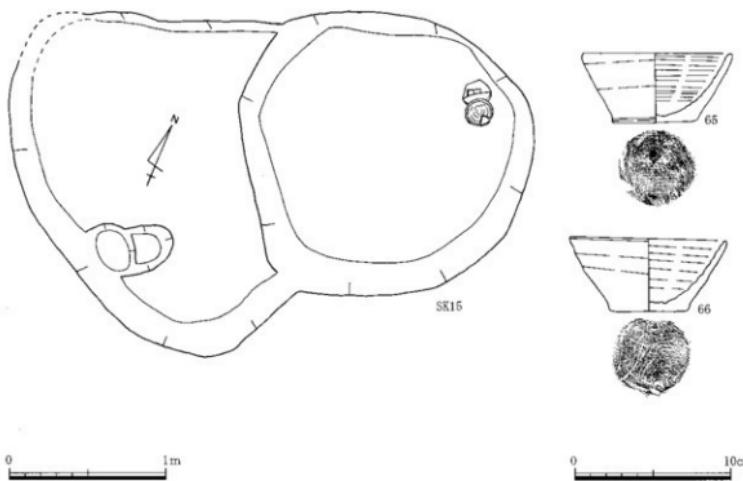
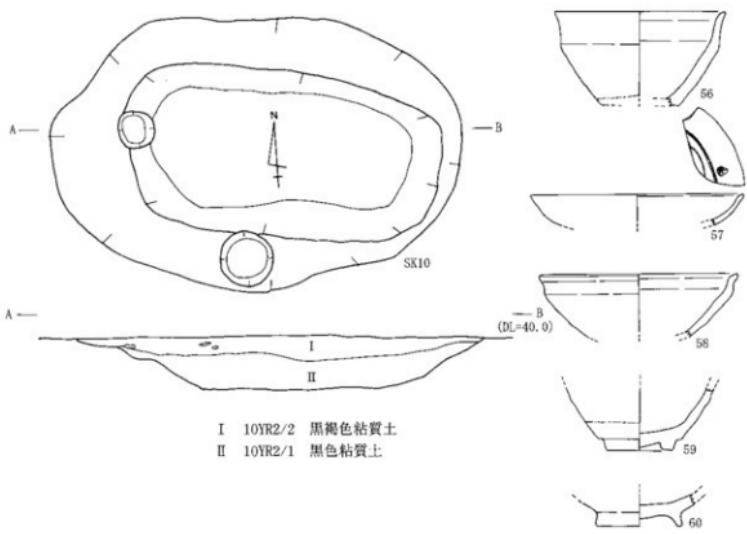


Fig.16 II区 SK10・15 平面・断面図及び出土遺物実測図

38は陶器皿である。底部は碁笥底で内外面共に被熱によるとみられるひずみがある。40は備前的小壺である。回転糸切り痕がみられ、間壁編年V期のものと考えられる。44は肥前系陶器の折縁皿で16世紀末～17世紀初頭のものである。

#### SK7 (Fig. 18)

調査区北に位置する。SK5の西にあり、SD1に隣接する。プランは円形で長軸92cm、短軸86cmを測る。出土遺物は土師質土器6点、青磁1点、数珠3点である。51は土師質土器杯である。器壁が薄く、胎土は白色に近い。47は青磁稜花皿で胴部は腰折れ、内面には波状文が施される。外底部は露胎である。数珠3点(48, 49, 50)はいずれも水晶である。土壤墓と考えられる。

#### SK9 (Fig. 15)

調査区北に位置する。プランは不成形で長軸3.2m、短軸2.2mを測る。深さは約60cmで、SD1に切られている。

出土遺物は計43点で、土師質土器36点、須恵器3点、近世陶磁器3点、鉄滓1点である。

52は肥前系陶器の小皿で内面に鉄絵を施す。16世紀末～17世紀初頭の製品である。

53、55は土師質土器鍋の胴部である。54は土師質土器杯で内外面にロクロ目が残る。SK7から出土した遺物と接合関係にある。

#### SK10 (Fig. 16)

調査区中央よりやや西、SK4の東に位置する。楕円形のプランを有し、長軸2.6m、短軸1.7mを測る。深さは28cmである。

出土遺物は計28点で土師質土器11点、近世陶磁器11点、須恵器4点、青磁1点、青花1点である。近世陶磁器のうち天目茶碗は4点あり、中から3点を選んで図示した。59の天目茶碗は高台削り出しの後、高台内外面へのナデを施す。

#### SK11

調査区西端に位置する。不成形のプランを有し、SD1を切っていた。長軸2.2m、短軸1.6mを測る。深さは18cmである。遺物は出土していない。

#### SK16 (Fig. 17)

調査区南東に位置する不成形のプランを有し、直径52cmを測る。埋土に親指大の砂岩が多く含まれていた。出土遺物は土師質土器で、鍋3点、杯1点を図示した。

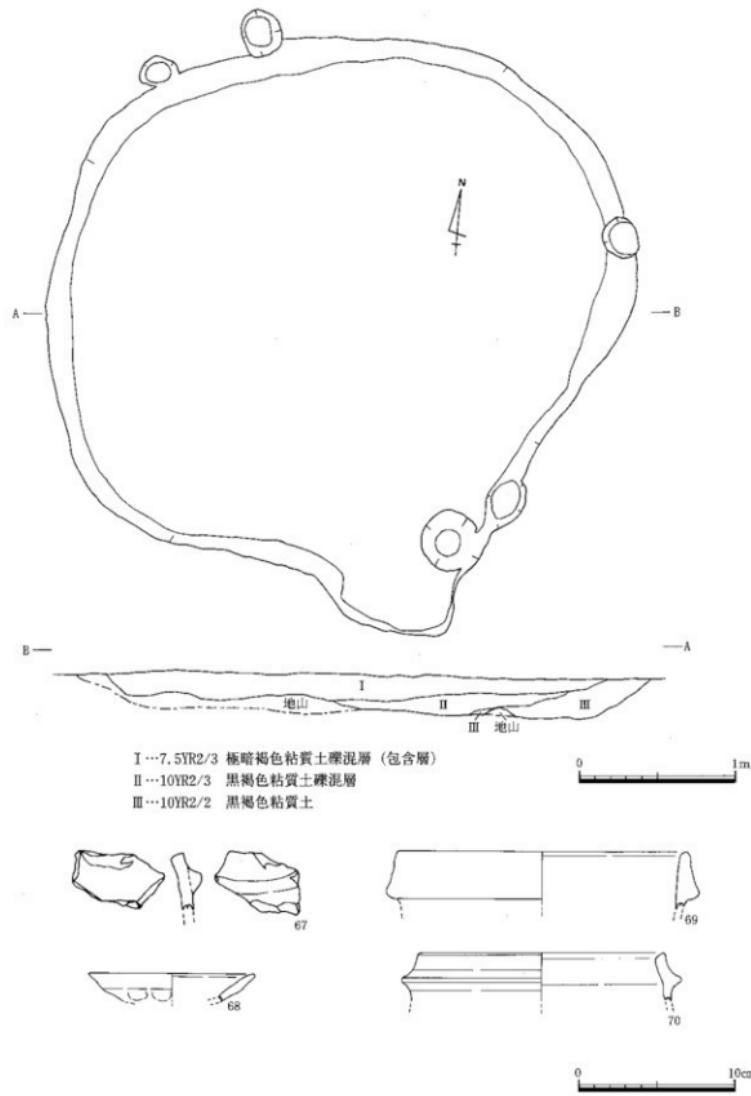


Fig.17 Ⅱ区 SK16 平面・断面図及び出土遺物実測図

SK17 (Fig. 18)

調査区中央より東に位置する。隅丸方形のプランを有し、P 199に切られている。

長軸2.3m、短軸1.96mを測る。深さは80cmである。壁面はほぼ垂直に落ちており、床面は水平である。備前擂鉢一点が出土している。SD1より出土したものと接合関係にある (78)。

2. 近世

SK15 (Fig. 16)

調査区中央に位置する。不成形の楕円形プランを有し、西側部分にテラス状の高まりがあり、長軸1.8m、短軸86cmを測る。深さは18cmである。少量の骨と人間の前歯とみられる歯が出土した。土壤墓と考えられる。出土遺物は土師質土器碗2点である (65, 66)。

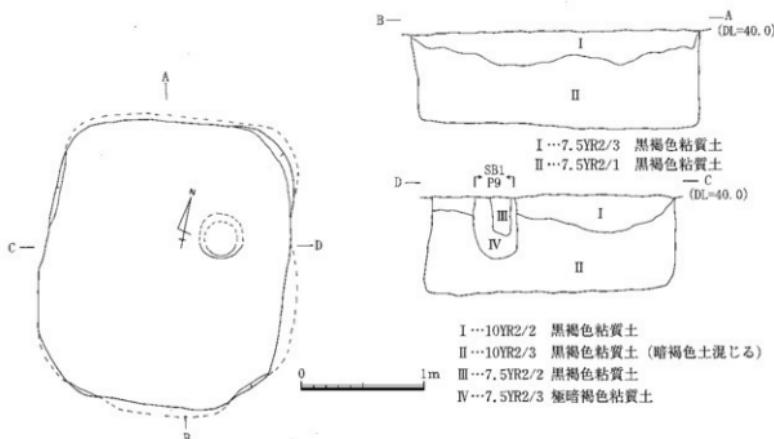
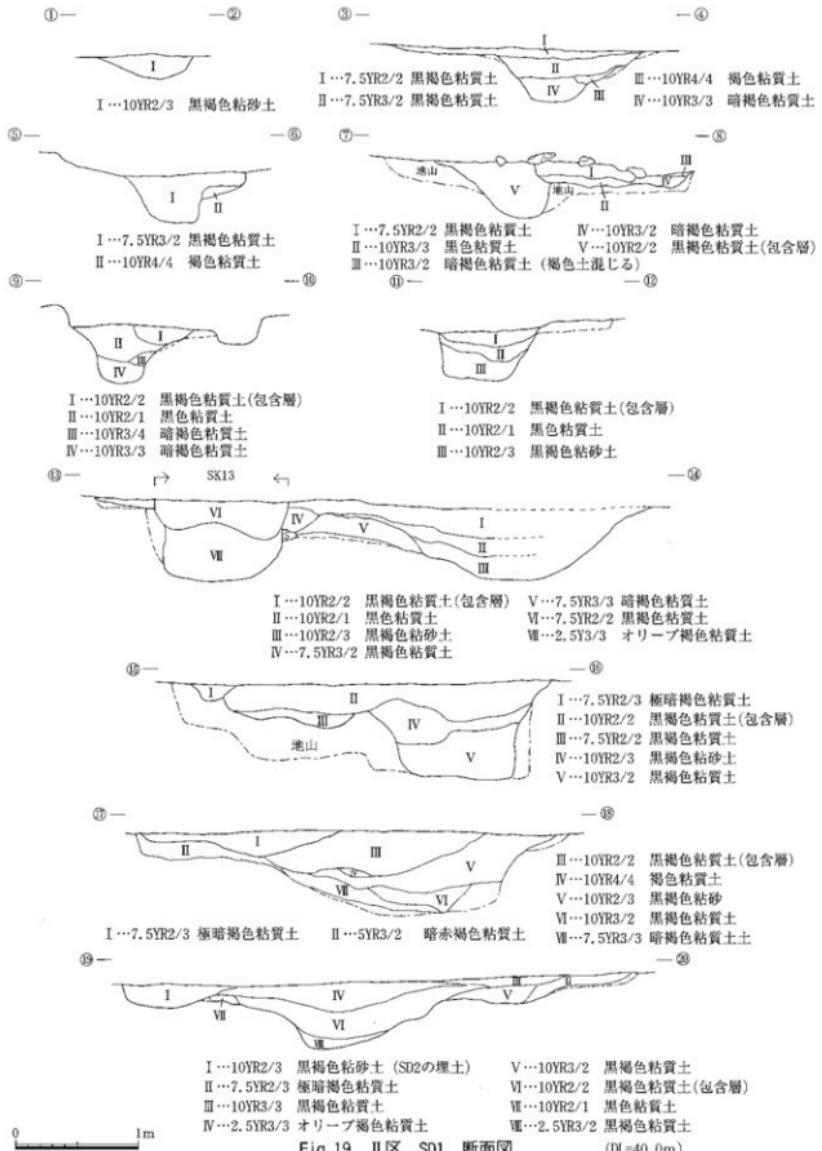


Fig.18 II区 SK17 平面・断面図



### ③ 溝

SD1 (Fig. 13.19)

調査区内を囲むような形で位置する溝で、確認延長は69mである。西側を南北に走る箇所をSD1-①、北西端でカーブして北側を東西に走る箇所をSD1-②、東側を、SD3と並行して南北に走る箇所をSD1-③とする。

SD1-①は、幅84cm～2m、深さ24～48cmを測り、セクションポイント1 (①-②) で浅い船形状を呈す。単純1層である。調査区南壁にプランが確認されたことから、SD1は南へ延長するものと考えられる。セクションポイント2 (③-④) では幅が広くなり、南よりも深くなる。4層に分層できる。SD11に切られており、埋土は南に小礫が混じる黒褐色粘砂土 (10YR2/3) が堆積するが、北に向かうにつれて薄くなる。代わって黒褐色粘質土 (遺物包含層) の堆積がみられる。

SD1-②は、幅82～4.1m、深さ40～58cm急激に幅が広くなる。SK5・13・24・25に切られている。断面はセクションポイント5 (⑨-⑩) ・6 (⑪-⑫) で逆台形状を呈する。最下層にみられる粘砂土の堆積から、生活用排水として活用されたと考えられる。

SD1-③は幅3～3.4m、深さ54～68cmを測り、SD3に切られている。セクションポイント10 (⑯-⑰) は堆積が他と比べて異なる。南端部は序々に浅くなり終わる。

出土遺物は土師質土器159点、須恵器9点、近世陶磁器43点、備前3点、青磁7点、白磁7点、瓦3点、染付3点、瀬戸・美濃4点、砥石1点、石器1点、鉄製品2点の計242点である。

38は瀬戸・美濃窯陶器の丸皿である。被熱痕跡がみられる。76は肥前産陶器の皿で、内外面ともに釉に透明感と光沢がある。78は備前の捕鉢である。口縁の一部がSK9、胴部の一部がSK17出土の捕鉢と接合関係をもつ。口縁部が上方に拡張され、口縁部まで捕目が認められる。胎土は礫を殆ど含まず、滑らかである。間壁編年V期に属すると考えられる。

79は肥前産陶器の皿で、釉が焼成不良により白濁する。81は景德鎮窯の青花碗で、高台内に放射状にケズリ痕が認められる。銘を有するが判読は不可能だった。疊付に虫喰い状の釉剥げが見られ、外面と内面の見込みに草花文が施される。

82は美濃窯陶器の丸皿で、内外面施釉され高台内にはトチン痕が有る。84は肥前産陶器の折縁皿で、見込みに砂目積痕が有る。87は瀬戸・美濃窯陶器の陵皿（輪花形）である。見込は無釉、外底部は鉄釉を施し、輪ドチ痕がみられる。碁笥底である。16世紀末に生産されたものと考えられる。88は土師質土器鍋である。胴部は直線的に上方に立ち上がり、口縁部にいたる。内面ヨコナデを施す。89は白磁皿である。器壁は薄く、疊付に釉剥ぎ痕が認められる。

93は肥前産磁器の皿である。内面見込みに草花文が施される。94は瀬戸・美濃窯陶器の灰釉小皿である。胴部内面に丸ノミ上工具により刻線が入り、見込に印花技法による菊花文がみられる。内底部は無釉である。外底部は輪ドチ痕が見られる。95は土師質土器鍋である。内外面にナデ調整を施す。

(SD1と埋土の堆積について)

調査区北はSD1-②より北に黒ボクが堆積しており、包含層は確認できず数基の柱穴を検出したのみにとどまった。SD1-②より南には黒ボクの堆積はみられないが、黒ボクを埋土とする柱穴1基の

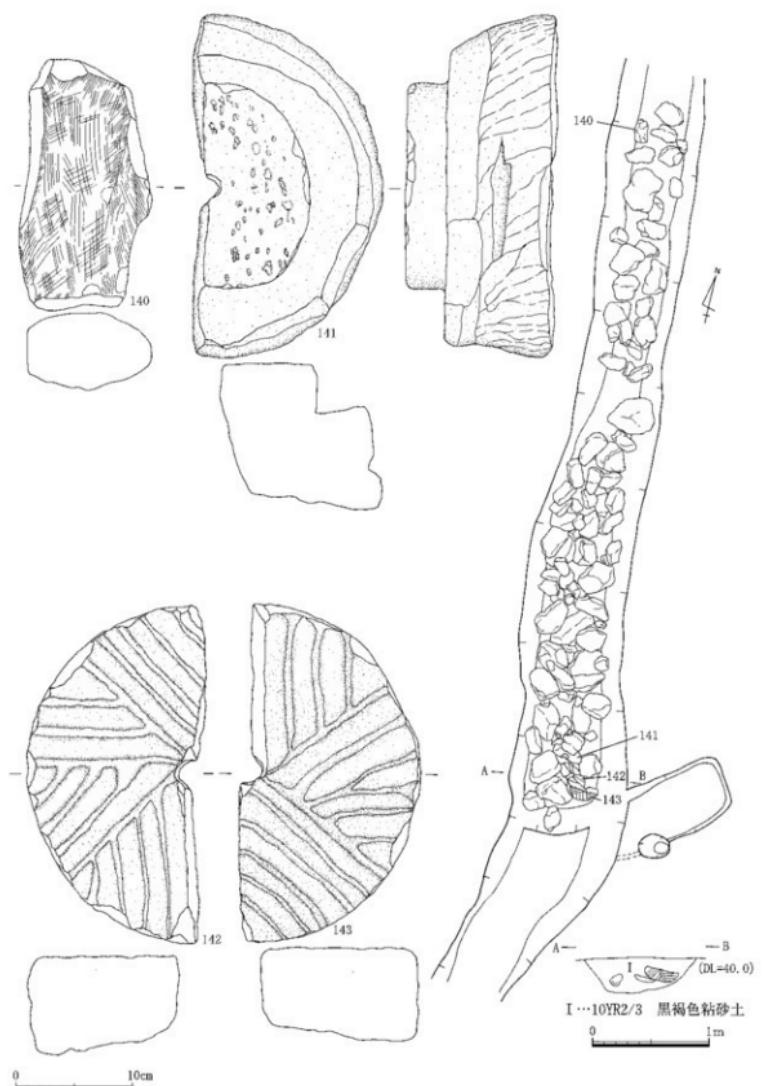


Fig.20 II区 SD2 平面・断面図及び出土遺物実測図

みである。調査区南には、10YR2/3黒褐色粘質土疊混層の堆積が確認された。親指大の小砾を含む。

#### SD2 (Fig. 20)

調査区東に位置する。中世の溝SD1-③を切っており、延長12.6m、幅70cm～1m、深さ32を測る。埋土は単純一層で、10YR2/3黒褐色粘質土である。溝内には砂岩、チャートの自然石が多数放り込まれており、中には砥石（140）や砂岩製の石臼（141, 142, 143）など石製品も含む。青磁2点、土師質土器7点、須恵器1点、近世陶磁器1点の計15点が出土している。

中世の比較的短期間に機能し、廃棄された可能性がある。

#### SD3

調査区北東端に位置する。確認延長12m、幅2.5m、深さ18cmを測る。

埋土は単純一層で、7.5YR3/4暗褐色粘質土と10YR2/2黒褐色粘質土が混じったものである。出土遺物は土師質土器11点、近世陶磁器1点で、南端部はSD1-③と同様に浅くなっている。図示できる遺物はない。

#### ④掘立柱建物

##### SB1 (Fig. 21)

調査区東寄りに位置する建物跡である。規模は梁間1間（4.6m）、桁行4間（7.4m）、桁行の柱間寸法は1.6～1.9mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、検出規模はP1～4, 8, 10が径32～36cm、P6, 7, 9が径38～40cmを測る。深さはP1, 2, 8, 10が32～44cm、P3～7, 9が48～56cmを測る。埋土はP1～3, 5, 8が黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合、P9が極暗褐色粘質土である。

出土遺物は、P3より香炉（21）が出土している。瀬戸美濃産で底部は三足になっており、口唇部から全体全体に鉄軸がかかる。内面・外底部は露胎である。

##### SB2 (Fig. 22)

調査区中央よりやや西に位置する建物跡である。

規模は、梁間1間（1.2m）、桁行2間（2.1m）、桁行の柱間寸法は1.0～1.1mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、検出規模は16～24cm、深さは8～22cmを測る。柱穴より土師質土器3点が出土している。

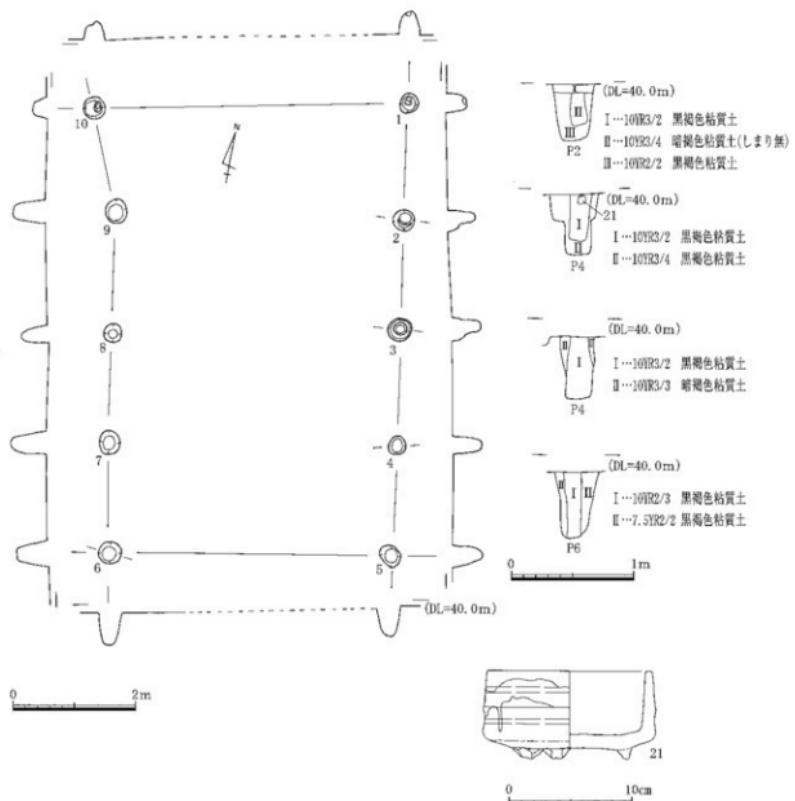


Fig.21 II区 SB1 平面・エレベーション図・断面図及び出土遺物実測図

### SB3 (Fig. 22)

調査区北端に位置する建物跡である。北西端がSD1に切られており、柱穴の存在は確認できていない。規模は梁間1間（3.6m）、桁行3間（5.6m）、桁行の柱間寸法は1.8~2.0mを測る。柱穴の平面形態は円形または楕円形を呈し、検出規模は径16~32cm、深さは、20~60cmを測る。埋土は10YR2/2黑褐色粘質土である。

遺物は、柱穴より土師質土器10点が出土している。

### SB4 (Fig. 23)

調査区西に位置する建物跡である。SD1に隣接し、規模は梁間1間（2.8m）、桁行4間（5.8m）、

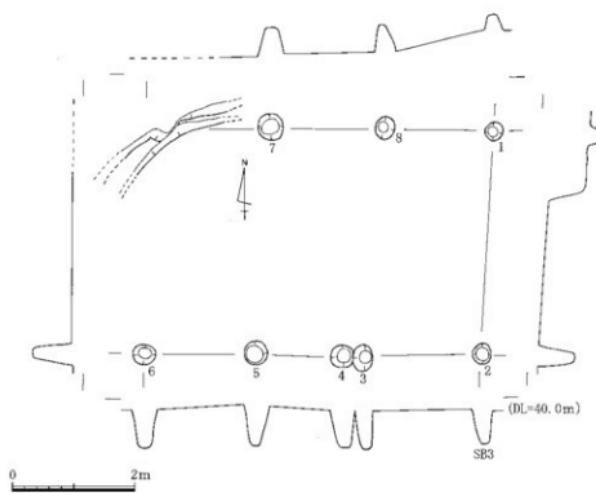
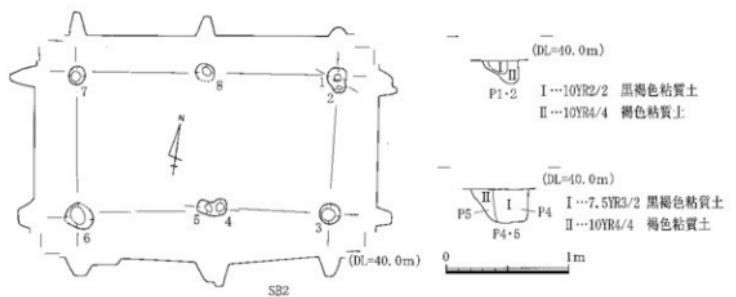
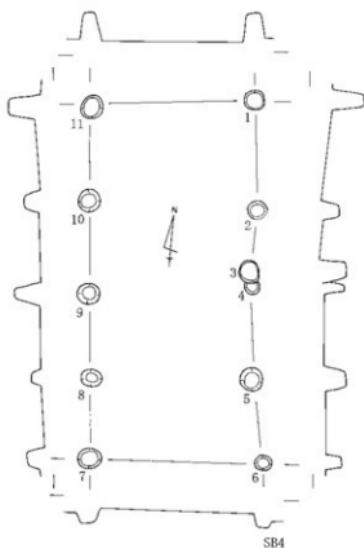


Fig.22 II区 SB2・3 平面・エレベーション図・断面図

桁行の柱間寸法は1.2~1.8mを測る。柱穴の平面形態は円形または梢円形を呈し、検出規模は24~40cmを測る。埋土は10YR2/2黒褐色粘質土・10YR2/2黒褐色粘質土と7.5YR3/4暗褐色粘質土が混じったものがある。

遺物は柱穴より須恵器2点、青磁1点、染付1点、瀬戸美濃の菊皿1点(6)が出土している。菊皿は口縁部内面にケズリを施す。



SB5 (Fig. 23)

調査区南に位置する建物跡である。

規模は梁間 1 間 (2.6m)、桁行 3 間 (5.6m)、桁行の柱間寸法は 1.4~2.6 m を測る。柱穴の平面形態は円形または梢円形を呈し、検出規模は径 32~44 cm を測る。埋土は 10YR2/2 黒褐色粘質土・10YR2/2 黑褐色粘質土と 7.5YR3/4 暗褐色粘質土が混じたものがある。

遺物は柱穴より土師質土器 13 点、須恵器 1 点が出土している。

SB6 (Fig. 24)

調査区南に位置する建物跡である。規模は梁間 1 間 (3m) 桁行 3 間 (5.8 m) 桁行の柱間寸法は 1.6~2.4 m を測る。柱穴の平面形態は円形または梢円形を呈し、検出規模は径 32~35 cm を測る。

埋土は 10YR2/2 黑褐色粘質土と、10YR2/2 黑褐色粘質土と 7.5YR3/4 暗褐色粘

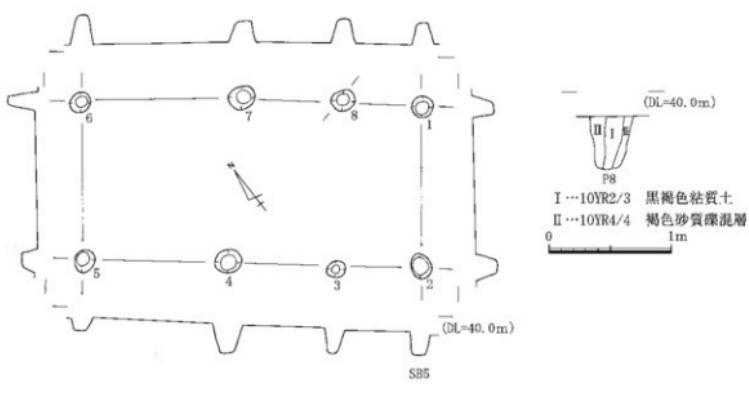


Fig. 23 II 区 SB4・5 平面・エレベーション図・断面図

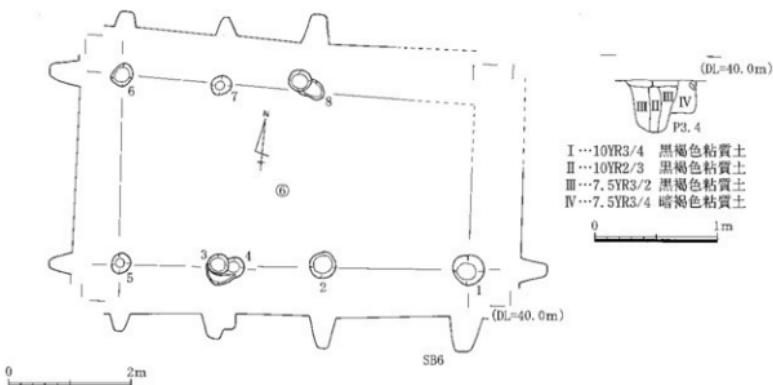


Fig. 24 II区 SB6 平面・エレベーション図・断面図

質土が混じって堆積したものとがある。遺物は、柱穴より土師質土器 8 点が出土している。

(2) 包含層出土遺物 (Fig. 27, 28, 30)

99は漳州窯系の青花小皿である。内外面に細かな貫入が認められる。16世紀後葉～17世紀初頭の製品である。100は肥前産の溝縁皿である。形状・胎土より二期（15世紀前葉～中葉）の製品と考えられる。104は肥前産の灰釉陶器皿である。高台は露胎で、灰釉は灰緑色に発色する。105も肥前産の灰釉陶器皿である。高台は露胎で、見込みに胎土目痕が認められる。

106は肥前産の灰釉陶器碗である。高台は露胎で兜巾が見られる。108は肥前産の陶器皿である。釉が焼成不良の為に白く発色している。109は磁器碗である。外面に鉄釉を施すが、内面は染付を呈す。产地・年代共に不明である。112は肥前産の溝縁皿である。外底部は露胎で横方向にケズリが入る。113は土師質土器の小杯である。底部から外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。内外面共に横方向ナデを施す。116は肥前産の溝縁皿である。胎土はにぶい赤褐色を呈し、灰釉は焼成不良の為に白く発色している。119は土製品である。焼成良好で固くしまっており、口縁部から内面にかけて横ナデを施す。外面には継になでた痕跡がある。120は土師質土器の鍋である。口縁部に横方向のナデを呈しており、胎土には雲母が混じる。外面には水平に鶴が付き、叩き目が残る。

121は肥前産の陶器皿である。内面に鉄絵が描かれている。外面は焼成不良の為、釉が白濁する。123は陶器碗である。内外面施釉で胴部下半より高台にかけては露胎である。見込みに胎土目積痕が認められる。釉は焼成不良の為、白濁する。124は肥前産の磁器小杯である。外面に草花文を施し、外底部には兜巾が認められる。疊付は釉剥ぎをしている。132は茶釜の胴部と考えられる。外面に炭の付着が顕著に見られる。

138はチャート製の石器である。調査区内で唯一の出土であり、流れ込みと考えられる。

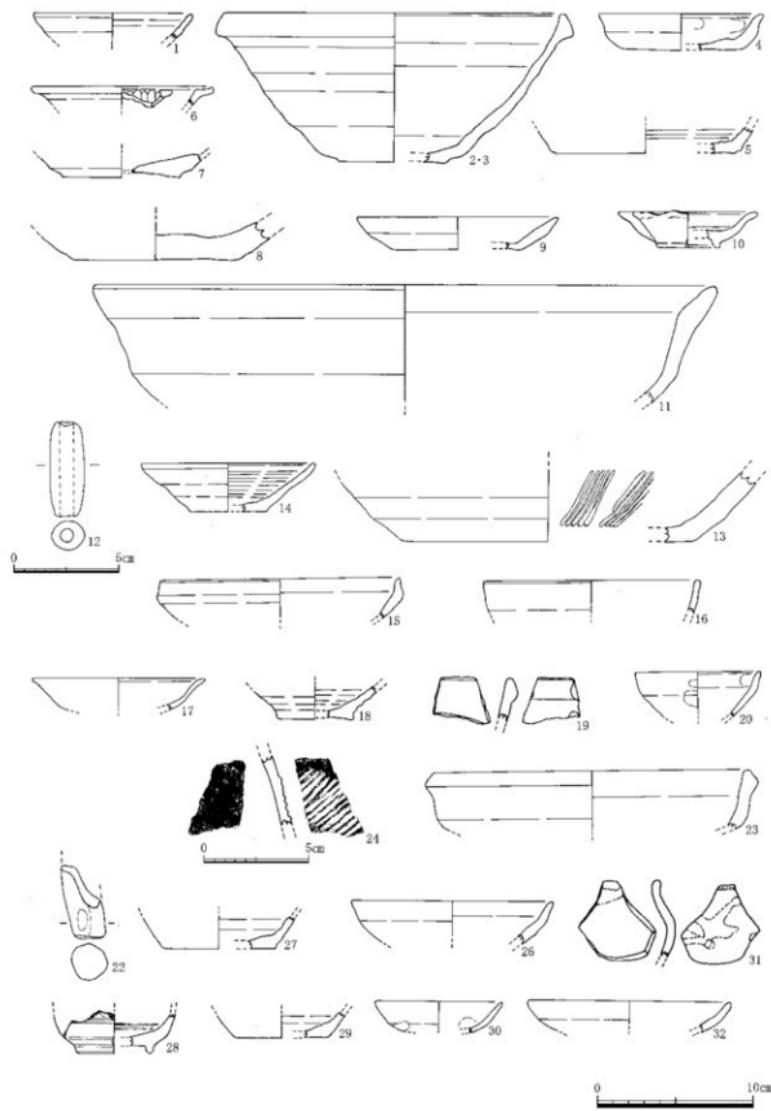


Fig.25 II区 出土遺物実測図(1)

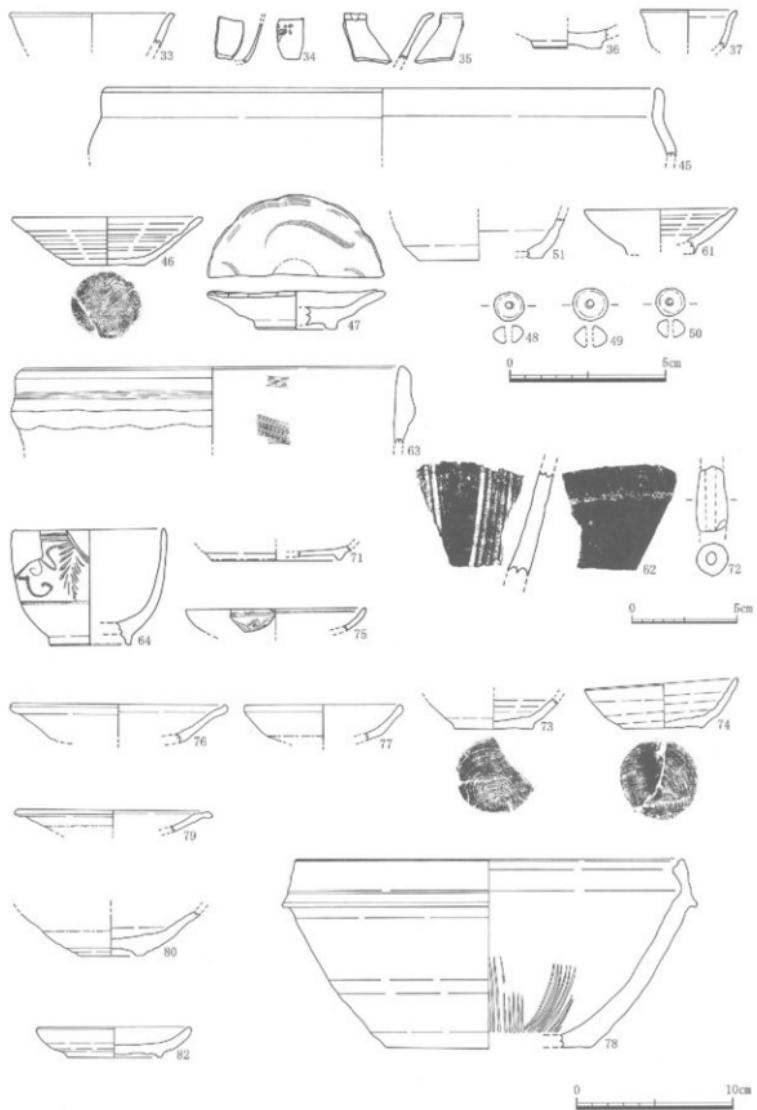


Fig. 26 II区 出土遺物実測図(2)



Fig. 27 II区 出土遺物実測図(3)

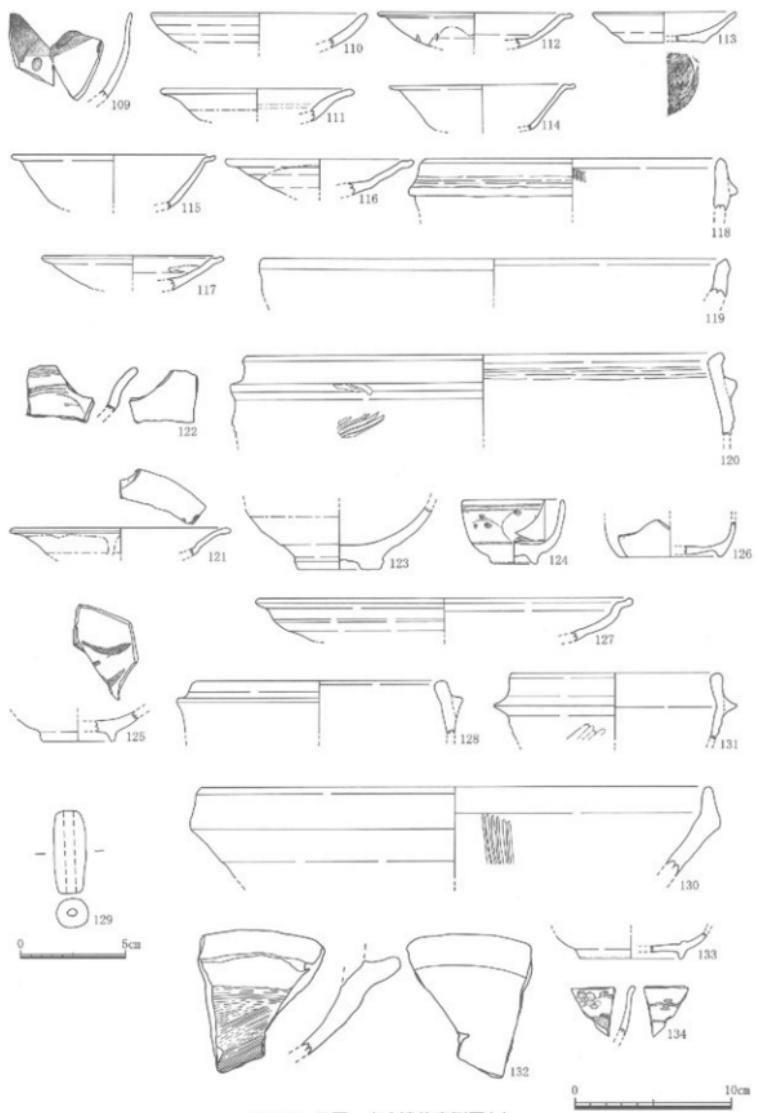
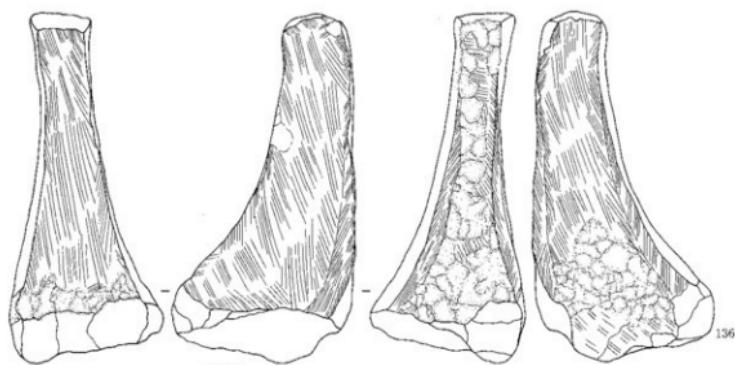
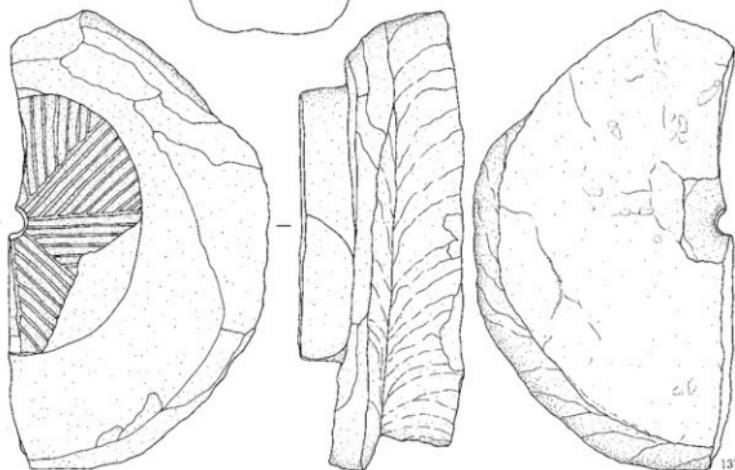


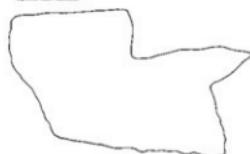
Fig.28 II区 出土遺物実測図(4)



136



137



0 10cm

Fig.29 II区 出土遺物実測図(5)

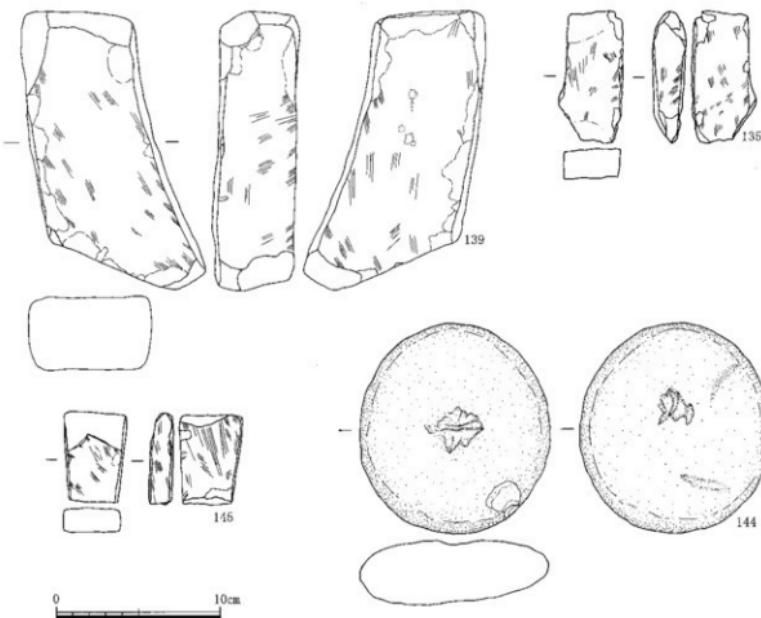


Fig.30 II区 出土遺物実測図(6)

遺物 番号	Fig.№	出土 地點	種類	器種/容器	法 量(cm)			外面部/内面部 調整	粘 土	特 徴	產 地	年 代	備 考
					口径	基底	腹径						
No.1	25	P9	土師質 土器	杯	10.2			内外面模ナテ調整	10.07/4 にぶい黃褐色				
No.2	25	P26	須恵器	こね体	22			内外面模ナテ調整	2.53V/2 灰褐色		東唐招	12世紀～ 13世紀	II-1期
No.3	25	P26	須恵器	こね体			7		2.53V/2 灰褐色		東唐招	12世紀～ 13世紀	II-1期
No.4	25	P40	土師質 土器	甌	10.6	3.3	5.7	内外面模ナテ調整	7.53V/4 にぶい黃褐色	手づくね			
No.5	25	P44	土師質 土器	甌			11.6	ロクロ成形	7.53V/4 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.6	25	SB4-78	陶器	縹緥足	11.6			内面部ケズリ	10.78V/2 灰白色		鹿戸美濃		大業初期
No.7	25	P63	土師質 土器	杯			7.6		7.53V/4 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.8	25	P63	須恵器	こね体			10.2	内面使用板あり	2.53V/2 灰褐色	外面部に漆付着	東唐招	12世紀～ 13世紀	II-1期
No.9	25	P66	土師質 土器	甌	13	2.1	8.2	内外面模ナテ調整	10.78V/4 にぶい黃褐色				
No.10	25	P69	甌	皿	9	2.3	2	内面覗込部の目詰 ハゼ	7.53V/2 にぶい黃褐色		澤州空系	11世紀後半～ 12世紀初頭	露痕部は褐色に染色 内台内は無釉
No.11	25	P70	土師質 土器	甌	40			内面部ケズリ	SYR6/5 褐色	外面部に漆付着	在地産	11世紀後半～ 12世紀初頭	11世紀後半の粗粒砂凝じ る
No.12	25	P75	土師質 土器	金瓶	全高 4.6	金幅 1.7	金厚 1.4		2.53V/2 灰褐色				
No.13	25	P88	須恵器	縹緥足			18.4	横ナテ 5脚接目	10.78V/1 灰褐色				N 斎相田
No.14	25	P95	七峰質 土器	杯	11.2	3.2	4.8	ロクロ成形横ナテ	10.78V/4 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.15	25	P105	土師質 土器	杯					7.53V/4 にぶい黃褐色				
No.16	25	P106	須恵器 青磁	碗	13.8			外底部入が經め られる	10.78V/1 灰褐色				
No.17	25	P109	須恵器 白磁	碗	14.8				7.53V/1 灰褐色				
No.18	25	P123	土師質 土器	杯			4.8	ロクロ成形横ナテ	10.78V/3 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.19	25	P166	須恵器 白磁	碗					N7/ 灰白色				11世紀
No.20	25	P168	土師質 土器	杯	8			ロクロ成形横ナテ	10.78V/4 にぶい黃褐色				
No.21	21	SB1-P3	陶器	甌	13.6	7.3	9	内外面 鉄錆	2.53V/2 灰褐色	外底部鉄錆	鹿戸美濃		
No.22	25	SB1-P1	須恵器 鏡 鋼牌	金瓶	全高 4.7	金幅 2.0	金厚 2.3		7.53V/2 灰褐色				
No.23	25	P174	須恵器 病	病	10.3				9.53V/1 灰褐色				
No.24	25	P175	土師質 土器	鍋 調理				外底部 鋸口目あり	7.53V/4 にぶい褐色	鋸口目			
No.25	14	P187	須恵器	鏡	12.8			(外) 純縫紉井弁文	2.53V/2 にぶい褐色	内面部施釉	鹿戸空系	11世紀後半～ 12世紀初頭	酸化成形で神は黄褐色 に発色する
No.26	25	P192	土師質 土器	杯	13				10.78V/4 にぶい黃褐色				
No.27	25	P195	十輪質 土器	杯			7	ロクロ成形横ナテ	10.78V/4 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.28	25	P227	須恵器	碗			4.6		518/1 灰白色		肥前産		
No.29	25	P241	土師質 土器	甌			6	ロクロ成形横ナテ	10.78V/4 にぶい黃褐色	外底部回転糸 切り			
No.30	25	P242	土師質 土器	小甌	8.2	2		内外面模ナテ調整	10.78V/4 にぶい黃褐色				
No.31	25	P243	陶器	小甌				外面部施釉(灰釉)	7.53V/4 にぶい褐色				燒成不良 LII層中に鉄錆かかる
No.32	25	SK1	陶器	小甌	13			内外面施釉(灰釉)	10.78V/4 にぶい黃褐色		肥前産		
No.33	25	SK1	陶器	甌	10.6			内外面施釉(灰釉)	7.53V/3 にぶい褐色				
No.34	26	SK1	須恵器 集付	不明				(外) 花文	7.53V/3 にぶい褐色				
No.35	26	SK1	陶器	甌				内外面施釉(白釉)	10.78V/1 灰白色	潮反り形	肥前産		
No.36	26	SK1	陶器	天目茶碗			4.4	両台内外側に露輪	10.78V/4 にぶい黃褐色		鹿戸空系	16世紀後半	大業初期
No.37	26	SK3	須恵器 白磁	甌	6.2				2.53V/1 灰白色				

Tab3 II区 遺物観察表(1)

遺物 番号	Fig.No	出土 地點	種 類	器種/器形	法 長(cm)				外 面/内 面 調整	施 土	釋 文	施 期	年 代	備 考
					口径	腹 高	腰 往	底径						
No.38	14	SK4-②	陶器	瓶	9.6	1.9		5.2	ロクロ虎形	10158/2	外底部 施素泥	裏印萬葉		
No.39	14	SK5	陶器	瓶	11				内外面施釉(灰釉)	2.5188/4				
No.40	14	SK5	備前	小壺					4.2 内面鏡ナガ調整	7.5186/2	外底部面紙 切引		開墾紀年V期	
No.41	14	SK5	土師質 土器	壺	10.2	2			内外面施釉(灰釉)	10158/4	口縁部外反十 字			
No.42	14	SK5	肌芯質 土器	壺 頭部	全長 6.3	全幅 2.3	全厚 2.3			2.515/1	黃褐色			
No.43	14	SK5	陶器	瓶	16				内外面施釉(灰釉)	2.517/1	黃褐色	折綠畫	16世紀末~ 17世紀前期	
No.44	14	SK5	陶器	瓶	18				内外面施釉(灰釉)	2.516/2	灰褐色	折綠畫	16世紀末~ 17世紀前期	
No.45	25	SK5	樂思質	研砂	36					2.516/1	青褐色			
No.46	25	SK7	土師質 土器	杯	12.1	3.1		4.8	ロクロ虎形	2.517/2	灰白色	外底部面紙 切引		
No.47	25	SK7	道母 青磁	後在溫	21.4	2.5		5.3		37/	灰白色	外底部施物		面小な直入認められる 内面に縫部と断部に扁孔
No.48	26	SK7	水晶	數珠		今幅 1	全厚 0.5					水晶製		
No.49	26	SK7	水晶	数珠		今幅 1.1	全厚 0.6					水晶製		
No.50	25	SK7	水晶	数珠		今幅 0.9	全厚 0.5					水晶製		
No.51	26	SK7	土師質 土器	杯				8	ロクロ虎形	2.518/4	黃褐色			
No.52	15	SK9	陶器	小壺					内外面施釉(灰釉)	2.515/1	黃褐色		16世紀末~ 17世紀前期	
No.53	15	SK9	土師質 土器	瓶 頭部					外底部子口區付肩	7.516/4	に点々櫻色	雲母合心		
No.54	15	SK9	土師質 土器	杯				4.5	ロクロ成形横ナガ	7.516/4	に点々櫻色	外底部面紙 切引		
No.55	15	SK9	土師質 土器						外面部ヨリ	7.517/6	櫻色			
No.56	16	SK10	陶器	天日茶碗	11				内面施釉(灰釉)	7.516/1	高台内窓市面	裏印萬葉	17世紀前葉	道房式茶席第1小品
No.57	16	SK10	道母 青磁	豆	13.8					37/	灰白色	肥前産	1640~ 1660年代	
No.58	16	SK10	陶器	天日茶碗	12.8				内面施釉(灰釉)	10156/2	灰白色	裏印萬葉	16世紀中葉	口縁部S字状を呈する
No.59	16	SK10	陶器	天日茶碗				4.1	内面施釉(灰釉)	7.516/1	灰白色	高台内窓市面	裏印萬葉	17世紀中葉
No.60	16	SK10	陶器	碗				3.6	内外面施釉(灰釉)	2.517/7	灰白色	外底部妙村署		
No.61	16	SK13	土師質 土器	杯	9.5				ロクロ成形横ナガ	7.517/6	櫻色			
No.62	26	SK13	備前	横鉢					ロクロ成形横ナガ	2.515/2	に点々南国色 す	砂輪磨合工具	15世纪後葉 ~16世纪	開墾紀年V期
No.63	25	SK13	土師質 土器	瓶					内外面横ナガ調整	7.517/4	に点々櫻色			
No.64	25	SK13	樂器 樂付	瓶	9.8	7.5		5.2	(外)臺草文	2.518/1	灰白色			
No.65	16	SK15	土師質 土器	杯	9.5	4.5		5.2		7.517/4	に点々櫻色	肥前産		
No.66	16	SK15	土師質 土器	杯	10	4.9		5		7.517/4	に点々櫻色	外底部面紙 切引		
No.67	17	SK16	土師質 土器	鍋						10156/8	白褐色			
No.68	17	SK16	土師質 土器	杯	10.8				内面鏡ナガ調整	7.516/7/6	櫻色			
No.69	17	SK16	土師質 土器	鍋						7.516/6	櫻色			
No.70	17	SK16	土師質 土器	鍋	16					7.516/4	に点々櫻色			
No.71	26	SK22	陶器 白磁	不明				8.2		37/	灰白色		16世紀後葉~ 17世紀前葉	
No.72	26	SK23	土師質	金瓶	全長 3.2	全幅 1.6	全厚 1.5			2.516/6	櫻色			
No.73	26	SK25	土師質 上器	杯	9.2	3.1		5	ロクロ成形横ナガ	7.516/3	外底部面紙 切引			
No.74	26	SK25	土師質 上器	杯	9.2	3.1		5	ロクロ成形横ナガ	7.516/6	櫻色	外底部面紙 切引		

Tab4 II区 遺物観察表(2)

遺物 番号	Fig. No.	出土 地点	種類	器種/器形	法 量 (cm)			外底/内面 調整	地 土	特 徴	產 地	年代	備 考
					上 径	最 高	腹 深						
No.73	26	匂合層 瓦層	青花	小杯	11.6			(内)草花文	NR/ 灰白色		澤州県系	16世紀末～ 17世紀初頭	
No.76	26	SD1	陶器	瓶罐	13.7				107B/1 褐色		肥前窓		
No.77	26	SD1	陶器	壺	10			内外面施釉	7. SYW/3 にぶい褐色	器底下平 露胎			
No.78	26	SD1	骨董	模様	25	12.5	13.4		2. SYW/2 灰褐色				
No.79	26	SD1	陶器	併縁壺	12.1				2. SYW/1 灰褐色		肥前窓	16世紀後葉～ 17世紀初頭	
No.80	26	SD1	陶器	壺			4.2	内外面施釉	2. SYW/2 灰褐色				
No.81	27	SD1	磁器 漆付	碗			5.2	(外)草花文	2. SYW/1 灰白色		景徳鎮窯		長村を庭にて前庭施築
No.82	25	SD1	陶器	丸壺	9.8	2	3		-		美濃窓	16世紀後半 大正三周年	
No.83	27	SD1	青磁	桜花皿	12				NR/ 灰白色		鹿児島		
No.84	27	SD1	陶器	折腰皿	12.4	3.2	4.8		2. SYW/3 浅褐色	内面 皿目模 み状あり	肥前窓	16世紀後葉～ 17世紀初頭	側部下平より底部にか けて露胎
No.85	27	SD1	瓦		全長 金額 8.8	全幅 9.4	厚さ 2.4		2. SYW/2 灰褐色				
No.86	27	SD1	磁器 白磁	壺	15			内外面施釉	SYW/1 灰褐色		肥前窓	16世紀後葉～ 17世紀初頭	
No.87	27	SD1	陶器	模様 (鶯花形)	10.7	1.4	6	外底施釉 内面施釉	2. SYW/2 灰褐色	番夷窓	福岡美濃窓	16世紀後葉～ 17世紀初頭	外底部 脚下平を残す
No.88	27	SD1	土師質	瓶	26.4			内裏模ナガ調整	107B/4 にぶい黃褐色				
No.89	27	SD1	磁器 白磁	壺			6.4	内外面施釉	SYW/1 灰白色				
No.90	27	SD1	土師質	圓罐	全長 8.1	全幅 6.5	全厚 3.1		2. SYW/4 浅褐色		鹿島窓		
No.91	27	SD1	陶器	模様皿	15			内外面施釉	109Z/1 灰白色				
No.92	27	SD1	土師質	杯			6	ロクロ底形横ナギ 内裏模ナガ調整	7. SYW/4 浅褐色	外底部圓底糸 切刃			
No.93	27	SD1	磁器 漆付	碗			5.6	(内)草花文	NR/ 灰白色	外底面中央に 砂付番			
No.94	27	SD1	陶器	菊壺			6	(内)熱狀に施釉	2. SYW/1 灰白色		鹿戸美濃窓		
No.95	27	SD1	土師質	甕	19.6			内裏模ナガ調整	7. SYW/6 褐色				
No.96	27	SD1	土師質	甕	21.4			内裏模ナガ調整	107B/4 にぶい黃褐色				
No.97	27	SD1	磁器 白磁	皿				内外面施釉	NR/ 灰白色	盤付			
No.98	27	SD1	磁器	瓶	15.8			内外面施釉	NR/ 灰白色	ロクロ底形		II-3期	
No.99	27	匂合層 瓦層	青花	皿	11			内裏模施釉	NR/ 灰白色	置入焼められ る	澤州県系	16世紀次 17世紀初頭	
No.100	27	匂合層 瓦層	陶器	皿	13.4			内外面施釉	7. SYW/1 灰白色	ロクロ底形	肥前窓		側部下平より底部に かけて露胎
No.101	27	匂合層 瓦層	陶器	天日暴輪			6.4	内外面施釉(鉄輪)	SYW/1 灰白色	外底部天日暴 められる			側部下平より底部にか けて露胎
No.102	27	匂合層 瓦層	陶器	桜花皿	12			内外面施釉	NR/ 灰白色		鹿児島系		
No.103	27	匂合層 瓦層	陶器	天日暴輪		4.9		内裏模施釉(鉄輪)	107B/2 灰白色	外底部先巾經 められる			
No.104	27	匂合層 瓦層	陶器	碗			2.8	内裏模施釉	7. SYW/2 灰白色		肥前窓		側部下平より底部にか けて露胎傾方向ケズリ
No.105	27	匂合層 瓦層	陶器	碗			4.2	内裏模施釉(透明磨)	107B/1 灰白色				側部下平より底部にか けて露胎傾方向ケズリ
No.106	27	匂合層 瓦層	陶器	碗			6.4	内裏模施釉(灰塗)	7. SYW/3 にぶい褐色	外底部先巾經 められる			側部下平より底部にか けて露胎傾方向ケズリ
No.107	27	匂合層 瓦層	陶器	缸	10				7. SYW/1 灰白色		肥前窓		
No.108	27	匂合層 瓦層	陶器	缸	14			内外面施釉(灰塗)	107B/2 にぶい黃褐色	側部下平傾方 向ケズリ	肥前窓		側部の上より灰塗かか る?白く絞色する
No.109	28	匂合層 瓦層	陶器	碗					2. SYW/1 灰白色				
No.110	28	匂合層 瓦層	陶器	皿	15.8			内外面施釉	SYW/2 灰白色	ロクロ底形	肥前窓		
No.111	28	匂合層 瓦層	磁器 白磁	皿	12.2			内外面施釉	NR/ 灰白色				側部下平より底部にか けて露胎傾方向ケズリ

Tab5 II区 遺物観察表(3)

遺物番号	Fig.No	出土位置	種類	器種/器形	法寸量(cm)			外観/内面 調査	地土	特徴	産地	年代	備考		
					口径	器高	原径								
No.112	28	包含層 瓦層	陶器	壺	12.4				5.95/1 灰褐色	滑溜且 肥厚底					
No.113	28	包含層 瓦層	土師質	小杯	9.2			ロクロ成形 模方向ナデ	7.35/7/1 灰白色	外底部膨脹糸 切り					
No.114	28	包含層 瓦層	陶器	壺	12				7.35/7/1 灰白色	滑溜且 肥厚底					
No.115	28	包含層 瓦層	陶器	壺	13				2.35/6/1 灰褐色		肥厚底				
No.116	28	包含層 瓦層	陶器	壺	12				5.95/4/ にぶい赤褐色	滑溜且				底部下半より底部に かけて露筋横方向ケズリ	
No.117	28	包含層 瓦層	四器	壺	11.6				10.95/6/2 灰青褐色					焼成不良 熟な白陶	
No.118	28	包含層 瓦層	土師質	壺	19				7.35/6/4/ にぶい銀色						
No.119	28	包含層 瓦層	土師質	土製品	30				10.95/7/4 にぶい銀色						
No.120	28	包含層 瓦層	土師質	壺	20.4				内外面 模方向ナデ	背盤以下に僅 分有				底部外面に叩き目あり	
No.121	28	包含層 瓦層	陶器	壺	14			内外面施釉	2.35/6/1 灰褐色	内部 脱鉢	肥厚底			調部下部より底部に かけて露筋横方向ケズリ	
No.122	28	包含層 瓦層	陶器	棱花壺					N/A/ 灰色		露皿系				
No.123	28	包含層 瓦層	陶器	壺				5.2	内外面施釉 にぶい赤褐色	貝頂に幼土貝 殻痕あり				底部下部より底部に かけて露筋横方向ケズリ	
No.124	28	包含層 瓦層	鐵器	小杯	6.6	4.2	2.8	(内)草文花 (外)模印	N/A/ 灰褐色	外底部脇介帶 にれる	肥厚底		II-1期		
No.125	28	包含層 瓦層	陶器	壺				4.6	内外面施釉	10.95/6/2 灰青褐色	内部 脱鉢				
No.126	28	包含層 瓦層	鐵器	束付				6.6	(外)施釉 (内)露胎	N/A/ 灰褐色	外底部 粗糾付着				
No.127	28	包含層 瓦層	陶器	壺	24				内外面施釉	7.35/6/3 にぶい銀色	ロクロ成形				
No.128	28	包含層 瓦層	土師質	壺	16				7.35/7/6 銀色						
No.129	28	包含層 瓦層	土師質	土罐	全長 4	全幅 1.6	全厚 1.4		7.35/6/4/ にぶい銀色						
No.130	28	包含層 瓦層	鐵器	鏃頭	32.8			(内)6条の鋒目あ り	7.35/5/1 灰色						
No.131	28	包含層 瓦層	土師質	壺	13.2				内外面施釉ナデ	7.35/7/6 銀色	胎土表面				
No.132	28	包含層 瓦層	土師質	茶葉小	26			(外)深垂垂 (内)叩き目	2.35/8/4 灰褐色						
No.133	28	包含層 瓦層	鐵器	錫器 白銀				6.4	内外面施釉	N/A/ 灰白色	外底部 砂付着			II-1期	
No.134	28	包含層 瓦層	鐵器	錫器 白銀					(外)唐草文 (内)折枝桜文	N/A/ 灰白色	肥厚底				
No.135	30	P108	鐵石		全長 8.1	全幅 3.95	全厚 2								
No.136	29	S21	鐵石		全長 22.7	全幅 11.8	全厚 9.9								
No.137	29	S22	石臼		全長 26.6	全幅 16.7	全厚 16.7								
No.138	30	S21-(2)	石移		全長 2.6	全幅 4	1.55								チャート製
No.139	30	S21	鐵石		全長 17.1	全幅 11.2	全厚 5.3								
No.140	30	S22	鐵石		全長 4	全幅 1.6	1.4								
No.141	20	S22	石臼		全長 25.7	全幅 16.4	13.1								
No.142	20	S22	石臼		全長 29.1	全幅 15.4	1.5								
No.143	20	S22	石臼		全長 29.1	全幅 15.5	1.1								
No.144	30	包含層 瓦層	白石		全長 12.9	全幅 11.0	2.9								
No.145	30	包含層 瓦層	鐵石		全長 5.5	全幅 3.8	1.5								
No.146	20	P242	鐵環												
No.147	30	S21-(2)	鐵環												

Tab6 II区 遺物観察表(4)

## 第V章　まとめ

### 1. 文献にみる屋舗田丸

今回、発掘調査を実施した屋舗田丸遺跡を含む当該地域は『長宗我部地検帳』によると、谷沿いに小さな田が散在するほかには

般若ヶ原野ノ籠ノ内	戸波ノ五郎扣
一所毫町　内　卅五代作　下々畑	散　田　口
九反十五代　定芝アレ	

とあり、一町にもおよぶ広大な荒地（一部は畑）が存在することを示している。

調査地は谷筋ではなく、新改川に近い平野部であることから、前述の荒地の部分に相当するものと考えられる。

### 2. 出土遺物よりみる屋舗田丸遺跡

県道寄りのⅠ区からは主として中世、新改川寄りのⅡ区からは古代～近世にかけての遺物が出土している。

Ⅰ区の出土遺物総数は土師質土器片575点、須恵器片59点、陶磁器片28点、備前5点、東播系須恵器1点、瓦2点、鉄滓6点、鉄製品4点、砥石2点の計682点である。土師質土器が圧倒的に多數を占め、陶磁器も景德鎮窯系・龍泉窯系など貿易陶磁が多かった。中には景德鎮窯系の菊皿(Fig. 7, NO.9)、播磨・堺系土師質土器鍋(Fig. 12, NO.37)など16世紀後半～17世紀初頭に属する遺物もあり、地検帳成立後に居住地として荒地を開墾した可能性を示唆している。

Ⅱ区も土師質土器が最も多く、貿易陶磁・国産陶磁も出土している。Ⅰ区、Ⅱ区と共に初期の肥前磁器(Fig. 12, NO.32)や茶釜・臼・天目茶碗などの茶道具も出土しており周辺地域の中でも比較的裕福な、もしくは有力な人物の居住地であったことが推定される。

### 3. 検出遺構よりみる屋舗田丸遺跡

Ⅰ区は、南に向かうにつれて柱穴の密度が高くなることから東西と南に向かって遺跡が広がることが想定される。検出遺構は、出土遺物よりいずれも中世の遺構である可能性が高い。

Ⅱ区は、溝と掘立柱建物跡が機能し、廃棄された時期を考察したい。

SB1がSD1とSK1が廃棄された後に出現していることが遺構の検出状況より窺える。SD1とSK17より出土した間壁幅年IV期の備前擂鉢が接合関係にあることから同時期に廃棄したと考えられる。大溝と内側で検出した柱穴は遺物より古代～中世に属する遺構と考えられ、調査地周辺は長宗我部地検帳への記載はなく「荒れ地」と称されていることから、中世の段階で一旦廃棄されて荒れた後にSB1、SK15などの近世の掘立柱建物跡、土壤墓が出現した可能性がある。

#### 4. 南ヶ内遺跡との関連

前述のとおり南ヶ内遺跡は屋舎田丸遺跡より500m南西に存在する中世の集落遺跡である。長宗我部地検帳では小字南ヶ内に屋敷に関する記載は確認できないが、周辺には善勝寺の阿弥陀堂、熊野神社が、寺社の周りには「西ノヤシキ」、「寺家ヤシキ」等の記述が認められる。南ヶ内遺跡の出土遺物は龍泉窯青磁碗等の貿易陶磁、国産陶磁器、土師質土器が出土する。備前播鉢は間壁編年Ⅳ～V期に属する。区画溝が検出されている点や出土遺物の年代、長宗我部地検帳成立段階は畠地であり屋敷地としての利用はなかった等、当遺跡と類似する点があることから、中世段階での両遺跡の関連はあったものと考えられる。

#### 5. 新改川（国分川）との関連

浦喜ヶ峰に端を発する国分川は土佐山田町を経て、南国市、高知市を横断し久万川と合流して浦戸湾に注ぐ。屋舎田丸遺跡・南ヶ内遺跡、開キ丸遺跡はいずれも新改川（国分川）沿いの河岸段丘上にあり、中世から近世にかけて機能している。新改地区より新改川に沿って南下すると土佐国分寺を通じ西谷遺跡、岡豊城跡の南を走る。浦戸湾には長宗我部元親の最後の居城となった浦戸城跡が太平洋を望む半島状の台地の先端部に位置する。

西谷遺跡は岡豊山の東山麓に位置し、岡豊城跡存続期と造構形成期が重なることから、岡豊城跡と何らかの関連があると考えられている。溝の埋土中より土師質土器、青磁が出土している。岡豊城跡は、長宗我部氏の本拠として著名な戦国時代の城である。備前・貿易陶磁・瓦質土器・瀬戸美濃系陶器などが出土している。貿易陶磁は青花の量が多く、漳州窯系のものも含む。この二遺跡と新改地区的諸遺跡との共通項は新改川であり、物資運搬の手段として河川を利用した可能性があるが、今後更に検討が必要である。

#### 参考文献

- 『長宗我部地検帳 香美郡 下』
- 『九州陶磁の編年』(2000) 九州近世陶磁学会
- 『城館出土の貿易陶磁器－織豊前夜の西国大名と貿易－』(2000) 日本貿易陶磁研究会
- 『高知県埋蔵文化財センター年報3 1993年度』(1994) (財)高知県埋蔵文化財センター
- 中山泰弘『南ヶ内遺跡』(2001) 土佐山田町教育委員会
- 山本哲也、坂本憲昭、松田直則『西谷遺跡』(1991) 南国市教育委員会



Fig. 31 新改川（国分川）周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	屋舎田丸遺跡	古代～近世	12	池ノ上遺跡	古墳～中世
2	開キ丸遺跡	縄文～近世	13	中屋遺跡	古墳～中世
3	南ヶ内遺跡	弥生～近世	14	国分寺遺跡群	古墳～近世
4	葵原神社遺跡	奈良～中世	15	土佐国分寺跡	奈良・平安
5	久次土居城跡	中世～近世	16	廣井土居城跡	中世
6	三畠城遺跡	中世	17	吉田遺跡	古墳～中世
7	比江山城跡	中世	18	吉田土居城跡	弥生～近世
8	比江庵寺跡	白鳳・奈良	19	西谷遺跡	中世
9	土佐国府跡	弥生～中世	20	市場遺跡	中世
10	三添遺跡	弥生～近世	21	岡豈城跡	中世
11	南池知遺跡	古墳～中世	22	下野土居城跡	中世

Tab. 7 新改川（国分川）周辺の遺跡地名表

## 写 真 図 版





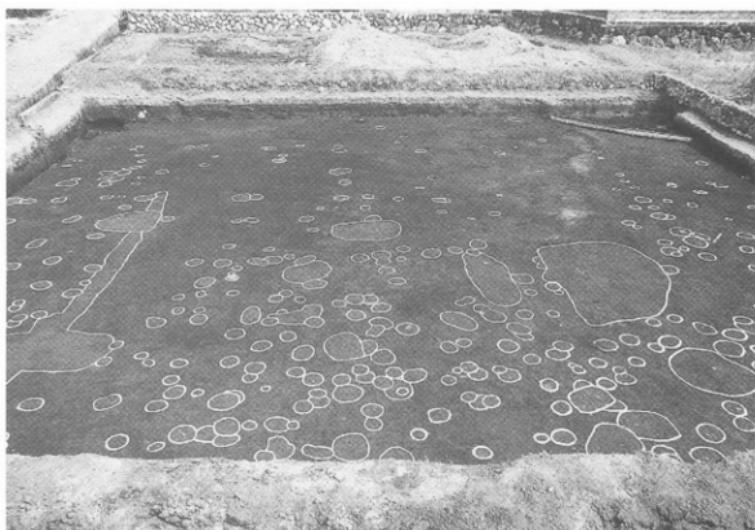
I区 調査前全景（北西より）



I区 作業風景（北西より）



I 区 西壁土層断面（東より）



I 区 遺構検出状態（南より）



I 区 P108 遺物出土状態（北より）



I 区 P109 遺物出土状態（北より）



I 区 SK1 南壁土層断面（南より）



I 区 調査区完掘状態（南より）



II区 調査前全景（南より）



II区 作業風景（南より）



II区 遺構検出状態（南より）



II区 P17 南壁土層断面（南より）



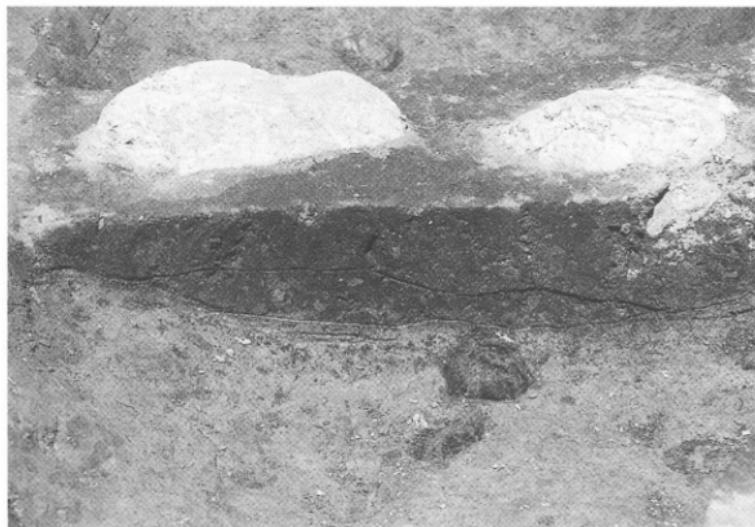
II区 P156 東壁土層断面（東より）



II区 SB1-P3 遺物出土状態（南より）



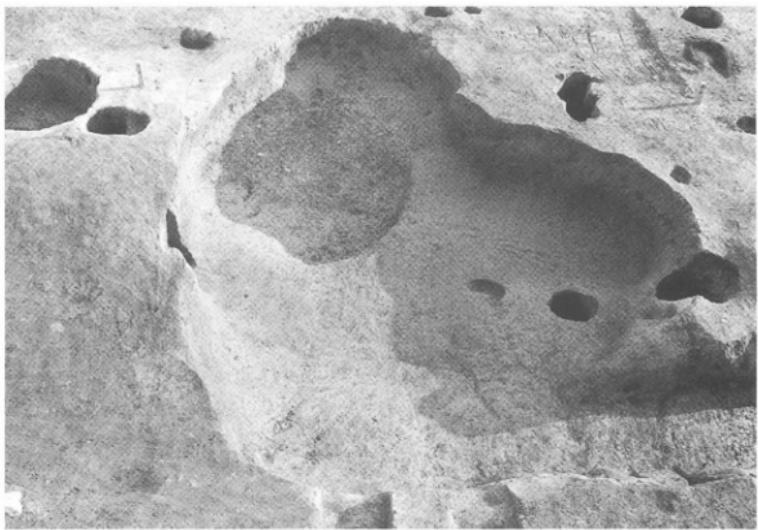
II区 SK1 遺物出土状態（南より）



II区 SK4 南壁土層断面（南より）



II区 SK5 (北より)



II区 SK9 (北より)



II 区 SK18 (北より)



II 区 SD1-② ⑨-⑩ 土層断面 (東より)



II区 SD1-② 完握状態（東より）



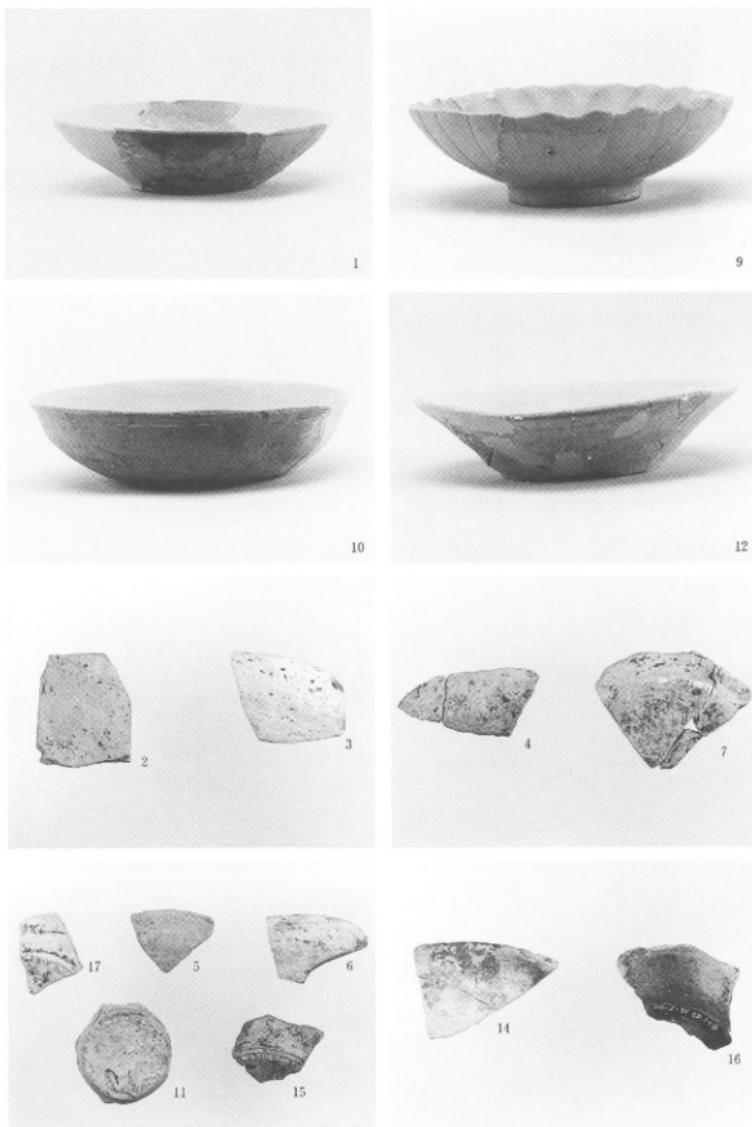
II区 SD2 (南より)



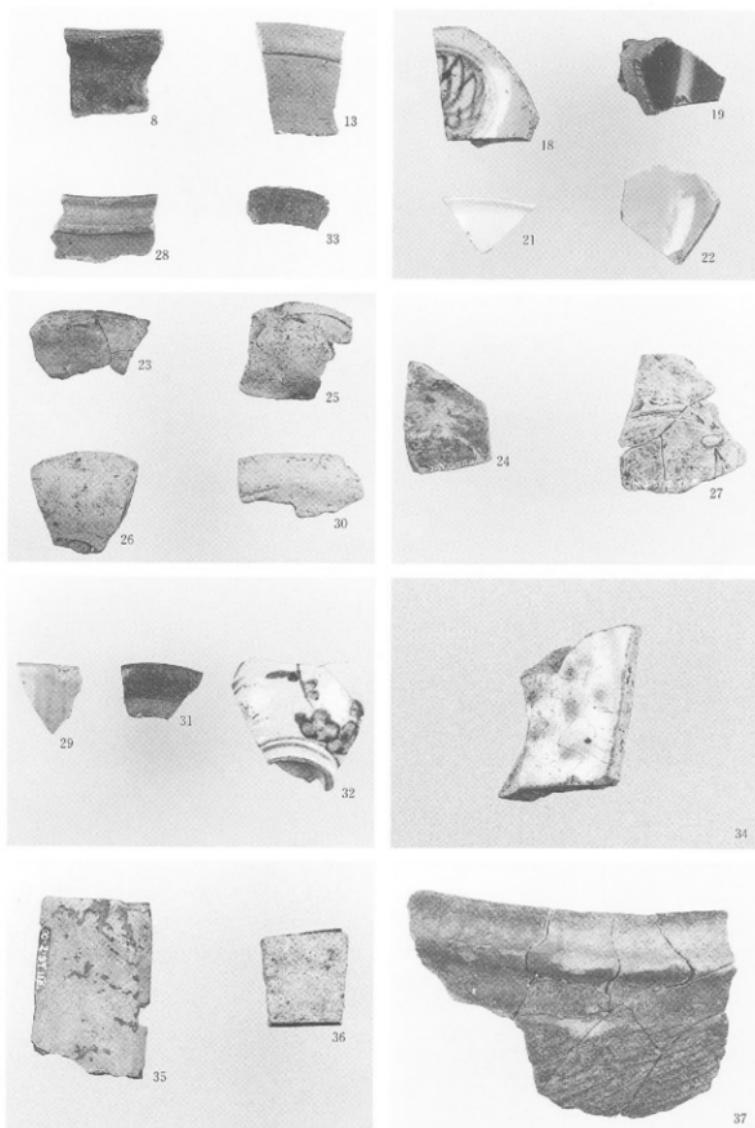
II区 SD1-② (南より)



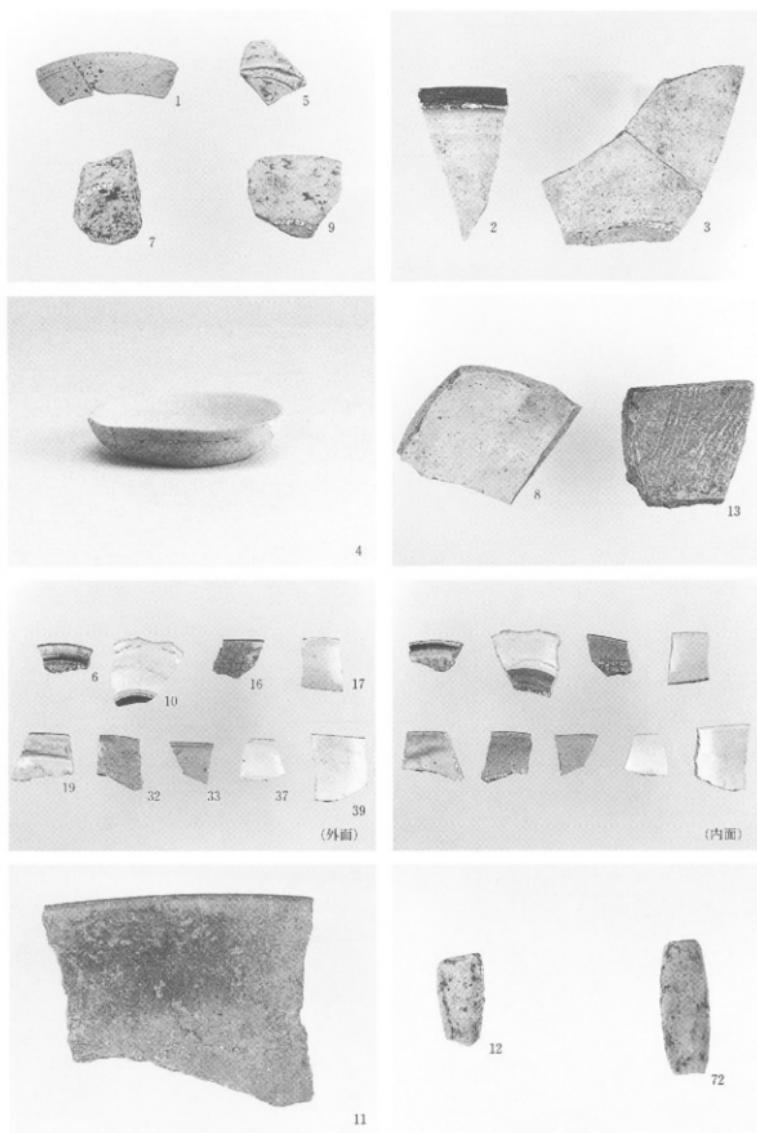
II区 調査区完掘状態 (南より)



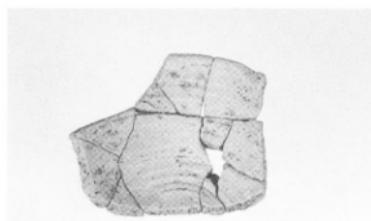
I 区 遺構内出土遺物



I 区 遗構内出土遺物・包含層出土遺物



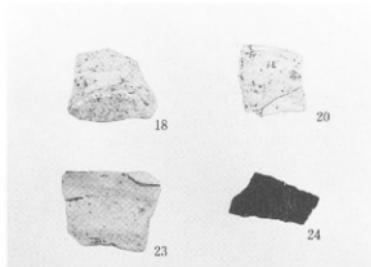
II区 遗構内出土遺物



14



15



18

20

23

24

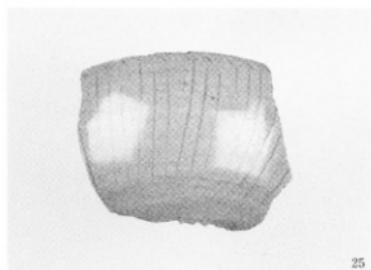


21

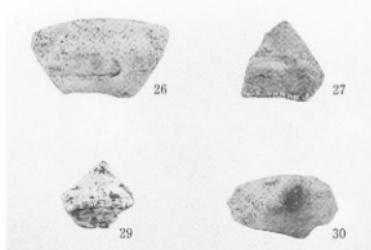


22

42



25



26

27

29

30



36

41

45

51

53

55

II 区 遗構内出土遺物